



# 関東学院

KANTO GAKUIN NEWS

# 学報



# 30

[関東学院学報 2005.9]

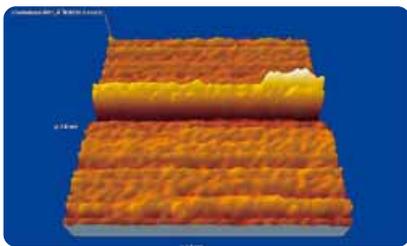


金沢八景キャンパス前を流れる侍従川から見た1号館、2号館

# 文部科学省平成17年度 「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に選定される

「次世代超高密度電子回路技術を視野に入れたナノスケール構造体の創製技術の開発」

シリコンのウェハの表面原子配列像  
(主査型トネル電子顕微鏡STM)



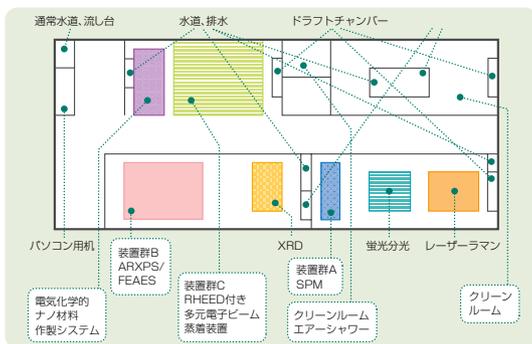
## ナノテクノロジー

ナノマテリア	ナノ基盤技術	アプリケーション
カーボンナノチューブ	Top-down	高機能材料、構造材料
フォスフェン	Library	集積回路
ゼオライト	電子、イオンビーム	半導体デバイス
ナノタリスタ	STM Library	メモリデバイス
ナノクラスター	エッチング	光通信
ナノコンポジット	skyjet	ディスプレイ
ナノワイヤ	Bottom-up	エレクトロニクス
ポーラスマテリアル	SPM	
ナノ粒子	Self-assembly	
デンドリマー	Thin Film	
フォトニック結晶	MEMS/レーザー基板、CVD	
等		

「ハイテク・リサーチ・センタープロジェクト概要と背景」

関東学院大学工学部の10名の教員からなる研究グループが、2005年に文部科学省から、最先端研究分野の研究を実施する「ハイテク・リサーチ・センター整備事業」に選定されました。テーマは、現在様々な分野で、注目されているナノテクノロジーという最先端分野です。

ナノテクノロジーとは、ナノメートル(原子10個分の長さに相当)の大きさの人工的な物質を創ることにより、いままでになかった機能をもつ材料を創製し、様々な科学技術の分野に画期的な進展をもたらそうとする最先端技術です。本学のナノテクノロジーグループは、次世代のエレクトロニクスのテクノロジーとして、必要不可欠な超高密度電子回路に着目し、ナノスケールの配線技術、パターンニングの創製技術、ナノスケールの導線(ナノワイヤ)開発、およびナノスケールの大きさで動作するデバイス、センサーの創製技術の開発を目指しています。プロジェクトの遂行を通し、先端技術を担う一角として、本学のナノテクノロジー研究成果を内外へ示し、この分野へ大きく



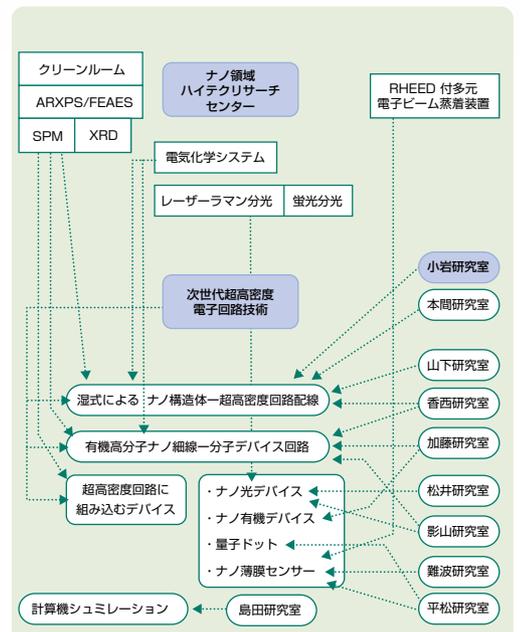
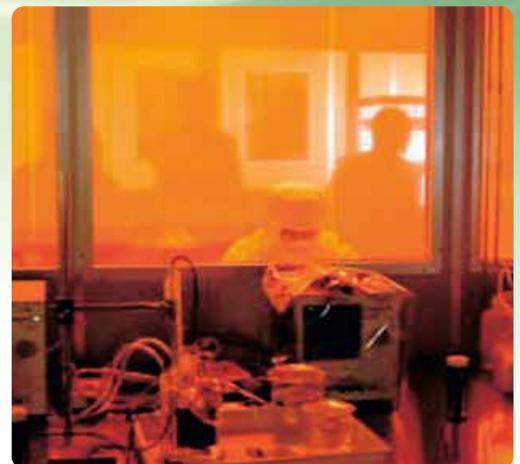
ハイテク・リサーチ・センター研究装置・設備配置図(工学部新棟)

ナノテクノロジーとは、ナノメートル(原子10個分の長さに相当)の大きさの人工的な物質を創ることにより、いままでになかった機能をもつ材料を創製し、様々な科学技術の分野に画期的な進展をもたらそうとする最先端技術です。本学のナノテクノロジーグループは、次世代のエレクトロニクスのテクノロジーとして、必要不可欠な超高密度電子回路に着目し、ナノスケールの配線技術、パターンニングの創製技術、ナノスケールの導線(ナノワイヤ)開発、およびナノスケールの大きさで動作するデバイス、センサーの創製技術の開発を目指しています。プロジェクトの遂行を通し、先端技術を担う一角として、本学のナノテクノロジー研究成果を内外へ示し、この分野へ大きく

貢献しようとするものであります。

## II プロジェクトメンバー

大学院工学研究科 本間英夫 教授(湿式ナノ技術)をプロジェクトリーダーとし、工業化学専攻・松井和則教授(ナノ光デバイス)、影山俊文教授(機能性ナノ材料)、山下嗣人教授(電気化学ナノ材料)、香



ハイテク・リサーチ・センターの研究組織・テーマ・研究装置・設備の関係

A Nano-technology Project by The Institute of Engineering, Kanto Gakuin University, Chosen as the 2005 High Technology Maintenance Planning under Ministry of Education and Science By Professor Hitoshi Kato, Department of Electric-Electronic Information Engineering

A Nano-technology Project submitted by The Institute of Engineering, Kanto Gakuin University, has been chosen as one of the technology maintenance planning for the academic year of 2005 under the auspices of Ministry of Education and Science. Ten faculty members of the College of Engineering have been involved in this project. Its theme is development of nano-scale structure creative technology entering our visual range of next generation high density electronic circuit technology.

[目次]

KGU研究活動の最前線⑤ ハイテク・リサーチ・センター整備事業	1
環境共生技術フロンティアセンターの計画・設計 工学部建築学科 湯澤正信教授	3
高校生の詩コンテスト ／心にのこる最高の先生エッセイコンテスト	4
関東学院の源流を探る22 ハリー・B・ベニンホフ博士 (元東京学院・教授、学院長)	5
生涯学習センター Information	10
建学の精神を生きる 電気事業連合会副会長 樹本晃章氏	11
ポルトガル国より勲章 (研究成果) 人間環境学部 伊藤玄二郎教授 他	13
ボランティア活動報告 関東学院小学校 名取俊夫教頭	14
KGU環境サークルHEP活動紹介	15
学院役員・教職員人事	17
各校NEWS	20
同窓会だより	25
活躍する卒業生／編集後記	26

表紙：金沢八景キャンパス前を流れる侍従川から見た1号館、2号館  
(Cover Photo)Tatsuya Senuma

西博明教授(ナノ材料創製添加剤開発)、小岩一郎教授(湿式ナノパターニング)、電気工学専攻・難波典之教授(ナノセンサー)、平松友康教授(ナノ薄膜材料)、加藤ひとし教授(有機ナノワイヤ、有機ナノデバイス)、島田和宏助教授(ナノ材料理論物性)の10名のナノテクノロジー・関連分野研究者から構成されています。

Ⅲ ナノ領域ハイテク・リサーチ・センター

建設中の工学部新棟内へ、プロジェクト推進のための研究装置・設備を集中配備し、内外に誇れる先端技術のセンターとしてのハイテク・リサーチ・センターの構築を進めていきます。

ハイテク・リサーチ・センターは、定期的なハイテク・リサーチ・センター研究会を行い、研究テーマの達成へ向けてメンバー間の密接な研究連携を図っています。さらに学外の研究者、外国の研究者も交えた研究成果の報告会として、WORK SHOPの学内開催を計画しています。ナノテクノロジーの分野の研究は、インパクトが大きく、関東学院大学のこの分野での成果は、最先端の学問領域のみならず産業界への貢献も期待されるので、表面工学研究所との協力体制づくりも急いでいます。

Ⅳ 今後の展開



2006年3月完成予定の工学部新棟(完成予想図)

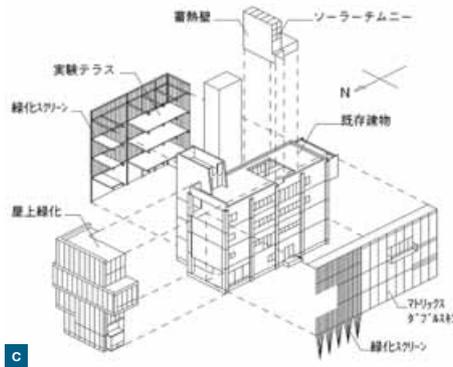


創立125周年記念ロゴ・デザインコンセプトについて

2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、4年先のことでありますが、その年を一つの目標として学院事業を展開して行くこととなります。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。このロゴのデザインは、120周年の際に制作したものと基本的には同じですが、そのデザインの「120th」を「125th」に置き換え、4年前から使用できるように「1884~2009」を加えました。このデザインコンセプトは、次のとおりです。関東学院各校の校章は、オリーブをモチーフにしているため、周年記念のシンボルとしても採用しました。そして何より建学の精神を端的に表す言葉、「人になれ 奉仕せよ」をシンボリックな言葉としてモチーフに加えました。ロゴの色は、スクールカラーのオリーブグリーンに加え、海を表すマリンドブルーとの2色です。学院になじみのある海のイメージが、白い波のラインで強調され、さわやかな躍動感を感じさせます。

# 環境共生技術 フロンティアセンターの 計画・設計

工学部建築学科教授 湯澤正信



a. 再生後外観：学生食堂前広場への表情  
b. 再生前建物  
c. 既存建物に付加された環境共生要素

環境共生技術フロンティアセンターは学術フロンティア研究の中心施設として建設された。本研究は環境負荷低減型都市の構築を目指し、環境共生技術による既存建物の長命化の技術の開発・検証を目的としている。築36年の大沢記念建築設備工学研究所の施設を対象とし、その再生・改修(一部増築)のプロセスそのものが研究であり、通常の施設建設とはかなり異なった様相を持っている。

計画に際して2つの課題を設定した。1つは施設の現代化で、実験室としての可変性や熱的環境の向上、研究者の交流の場づくり等、今日的な研究所のあり方を追求する。第2は安全の課題である。新耐震以前の建物であったが、躯体コンクリートは幸い中性化も進まず強度も高かったので、耐力が不足する構面に壁を打ち増し耐震壁とした。また、仕上材、配線・配管、サッシの更新等の耐久性向上を計った。

デザインコンセプトとして、第1に既存建物の記憶の継承によるキャンパス景観づくりがある。既存建物は上階でオーバーハングした形態に特徴があり、3階においてこれを継承することとした。力強いRCフィーレンディールトラスが左右にオーバーハングされ、道路からのランドマーク性を得ている。

第2に環境共生技術と建築空間との統合である。西面は学生食堂前のテラスに面し、ここを学生や教職員の憩いの場として楽しい壁としたかった。一方、ここに面する室内は熱的に劣悪であった。それで明るく透明なガラス面(ダブルスキン)と、バラによる壁面緑化という熱的環境を整える2つの現代的な外皮を提案した。

ダブルスキンは建物の外壁を二重に作り室内環境を好ましいものとする。奥行きが通常より広く取れ、夏場の換気による熱除去がかなり期待でき、サッシを廉価な普通ガラスで済ませることができた。冬場は2重ガラスと同じ断熱効果を出す。

西面手前にはワイヤを張り、屋上と地面から2種類のバラを這わせる。バラは冬に落葉し夏冬の日射調整となる。ここでは緑化の日射遮蔽や蒸散作用等の工学的効果のみでなく、もっと根源的に人を和ませてくれる力を期待し、キャンパスの環境整備に役立てたいと思った。これを機に「バラの花一杯キャンパス計画」運動を始めている。

4階を研究・実験の活動拠点=アトリウムとし、天井スラブの一部を取り除きトップライトを設けた。ここからの光はRC壁に蓄熱され、夜間の冷気を温度差で呼び込み建物内に貯まった熱気を逃すソーラーチムニーとなる。

# 心にのこる最高の先生

## エッセイコンテスト

●主催 関東学院大学 ●共催 毎日新聞社  
●後援 神奈川県教育委員会 / tvk (テレビ神奈川)

あなたの生の声を「エッセイ」に託してください。

今日、教育は深刻な問題を抱えています。簡単に答えは出せそうにありません。そういうときは、原点に帰ることが大切です。教育の原点、それは言うまでもなく、人間です。教える先生も、教わる生徒も、人間として向き合っているように、それを考えるために、私たちは、あなたにとって「心にのこる最高の先生」が、どんな先生であったのか、という問いを發します。どうかあなたの「心にのこる最高の先生」を語ってください。

（人となり、事件などの校訓を持ち、教育に真剣に取り組む本学は、この企画を通して、教育機関としての社会的使命を果たしたいと考えています。）

関東学院大学「心にのこる最高の先生」(MBT)プロジェクト実行委員会

◎テーマ「心にのこる最高の先生」 応募締切◎2005年9月9日(金) 消印有効

応募資格	中学生・高校生および一般(含む大学生)	作品送付先	関東学院大学「心にのこる最高の先生」事務局 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 FAXの場合→045-786-7862 Eメールの場合→mbt@kanto-gakuin.ac.jp (本文にテキストで入力してください)
賞	【中学生・高校生部門】 最優秀賞(2名)……学習奨励金 10万円 優秀賞(3名)……学習奨励金 3万円 【一般部門】 最優秀賞(2名)……生涯学習奨励金 10万円 優秀賞(3名)……生涯学習奨励金 3万円 【両部門】 佳作(各1名)……図書券 5千円分 ※各賞の受賞数は応募作品数により若干変動することがあります。 ※応募作品は返却しません。なお、応募作品の複製は関東学院大学に複製します。 ※単作中に特定の個人名を記載する場合は、個人情報保護についてご注意ください。	審査員	岡崎 和夫 (川崎市教育委員、麻生区女子短期大学教授) 太田 治子 (岸田理文文学賞受賞作家) 上村雅久子 (経済学教授) 木村 真久 (関東学院六浦中学校高等学校教員) 杉田 正樹 (関東学院六浦中学校高等学校教員) 高山 隆 (関東学院中学校高等学校教員) 香口 隆 (経済学教授、本学講師(一般教員)) 渡部 麗一 (毎日新聞社「教育と新聞」推進本部長)
応募内容	中学生・高校生部門と一般部門の2部門で募集します。応募は各部門に1人1篇まで、未発表で本人が創作した作品に限ります。字数は横書きで400字以内。行数など、形式は自由とします。	結果発表	2005年11月21日(月) 【中学生・高校生部門】 本学ホームページで受賞者の氏名・学校名・作品および応募者全員の都道府県名を発表します。 【一般部門】 本学ホームページで受賞者の氏名・都道府県名・作品および応募者全員の都道府県名を発表します。 【両部門共通】 結果は受賞者にお知らせします。
応募方法	応募ごとに必要事項を明記の上、作品送付付を送付。 【中学生・高校生部門】 氏名・郵便番号・住所・電話番号・学校名 【一般部門】 氏名・郵便番号・住所・電話番号・職種	表彰式	2005年12月17日(土) 関東学院大学 堂々八景キャンパス

お問い合わせ先  
 「心にのこる最高の先生」事務局……TEL: 045-786-7006 / Eメール: mbt@kanto-gakuin.ac.jp  
 ●エッセイ専用サイト……http://mbt.kanto-gakuin.ac.jp/  
 ●本学ホームページ……http://www.kanto-gakuin.ac.jp/  
 ●本学個人情報の保護方針……http://www.kanto-gakuin.ac.jp/privacy/

関東学院大学

# コンテスト主催で 社会に貢献する大学

関東学院大学は現在、社会に貢献するために二つのコンテスト企画を主催しています。

一つは2004年から始めた「高校生の詩」伝えたいこの想い」コンテストです。これは全国の高校生を対象に広く創作詩を募集する企画です。第1回は、1355名の応募がありました。

今年の第2回は、多くの高校、生徒さんのご支持を得て、3492名もの生徒さんから作品をいただきました。この企画の特長は、日本語部門に加え英語部門があることです。

## 詩



### 「高校生の詩」伝えたいこの想い」コンテスト

あなたの心からの想いを「詩」に託して誰かに伝えませんか。

「詩」に託して誰かに伝えませんか。

あなたの心からの想いを「詩」に託して誰かに伝えませんか。

あなたの心からの想いを「詩」に託して誰かに伝えませんか。

### 関東学院大学

テーマ 1. 今日までのわたし、明日からのわたし  
2. 支援、個人、家庭、社会……わたしにとって大切な人  
3. 人のために何が出来るか、わたしの強みとしてあげられること  
4. 自由課題(上記テーマ以外で心にのこることを、自由に書くこと。)  
賞 最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生

2005年7月15日(金) 消印有効

賞 最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生  
最優秀賞 高校生

お問い合わせ先  
TEL: 045-786-4923 全国高校生フォーラム事務局

## エッセイ

もう一つは、今年から始めた「心にのこる最高の先生」エッセイコンテストです。こちらの方はさらに広く、全国の中学生から一般までを対象に創作エッセイを募集する企画です。申し込み締め切り

がこの学報の発行日に近いため募件数はお知らせできません。この企画の特長は、中学生・高校生部門と一般(大学生含む)の二部門があること、毎日新聞社が共催していることです。

The Goal of the University Contributing to Society through Contests  
 In order to contribute to society, KGU holds two contests every year. One is the KGU Poetry Contest for senior high school students in Japan. The other is the Essay Contest on the theme of: My Best Teacher (for junior high school students and above).

KGU is aiming to become a university which contributes to society, based on the school motto of "Be a man, Serve the World".

ベニンホフ博士は、来日して間もなく、一九〇八年に「学生たちに接して」と題して、次のように記している。ここに、博士の日本における主たる関心事と使命感が示されているので、先ず紹介しておきたい。

「キリスト教青年会（YMCA）がいくつかの学生寮を開設している。それぞれ日本人キリスト者の寮監、寮母、外国人宣教師が運営にあっている。グレセット氏がそのひとつの寮に関わっており、入寮希望の男子学生を募っている。同氏は、今のところ三十人の学生の世話をしておられる。

新しいYMCAの学生寮のひとつで、私は、毎週水曜日の夕刻に、バイブルクラスを行なっている。三十人の寮生のうち二十人がこの聖書研究に加わっている。もともと、この集まりは、学生寮に住んでいるウォーターハウス氏（プリンストン大学を一九〇七年に卒業）が始めた。この集まりを二分することにした。十人の熱心な求道中の学生がいる。先週、寮生たちがウォーターハウス氏と私のために、歓迎会を開いてくれた。とても素晴らしい時を持っている。私たちは本当に「歓迎されている」ことを実感した。

土曜日の夕刻、YMCA会館で行なわれた学生の集まり（文芸クラブ）で、私は「習慣の心理学」と題して講演するように依頼された。そこでグレセット氏が二曲ピアノ演奏をされた。二百五十人の学生が出席していた。大半の学生が入場料を払って来聴している。この会合では、二人の日本人紳士が素晴らしい英語で挨拶した。



1901年当時のベニンホフ博士（27歳）

## 関東学院の源流を探る 22

# ハリー・B・ベニンホフ博士

1874-1949

東京学院 / 教授・学院長

「ザ・バプテスタ・ミッシヨナリー・マガジン」一九〇八年三月号）グレセット教授は、ベニンホフ博士より数か月あとだが、同じ一九〇七年に来日して同じく東京学院で教え、後に横浜に開設された関東学院で教えられた。戦争中も日本に留まられた先生である。

### 来日まで

ハリー・バックスター・ベニンホフ博士は、一八七四年四月八日、アメリカ合衆国ペンシルヴァニア州ヴィーナンゴ市に生れた。ここはペンシルヴァニア州の北西部に位置する。五大湖のひとつ、エリー湖に接したクラフォード郡にある。（他の資料の記述によれば、「タイタスヴィールとオイル・シテイの間」であるともいう。そうすると隣接するヴィーナンゴ郡のことになる。）

父の名は、ルイス・ネルソン、母の名は、メアリー・マクリントック・ベニンホフである。五男一女の長男であったという。「ベニンホフ」というドイツ系の姓は母方のものである。一八九一年に彼は母と死別している。十七歳のころである。その一年後、ハリー少年は、自活することと大学進学のためのために、インディアナ州の北西部にあるポーター郡ヴァルパレイゾに移住した。一八九二年から一八九六年まで、つまり一八歳ころから二二歳ころまで、同州のモンゴメリー郡や、ヴァーミリアン郡の学校で教えるかたわら、サマースクールに通って大学進学の準備をした。

ベニンホフ青年は一八九六年に二

二歳でフランクリン・カレッジ・オブ・インディアナに入学した。この大学は、今日でも中西部諸州の中で評価の高い、小規模なりベラル・アーツ・カレッジである。インディアナ州のバプテスタ教育協会が、高度なレベルの教育を行なう大学の必要を痛感して、一八三四年に設立したものである。

ベニンホフ青年は、一九〇一年に、同州ハワード郡ココモ出身のトロツテイー・メレルと結婚した。彼女もその大学の卒業生である。

その同じ年に、二人は教育宣教師として、ミャンマーのヤンゴンに派遣された。ベニンホフ博士は大学では化学と代数を教えた。この大学は、アメリカ・バプテスタ・ミッシヨナリー・ユニオンによって一八七四年に設立された。わが関東学院の前身、横浜バプテスタ神学校よりも十年早く始まった。博士が赴任した当時の学生数は、七百人であった。ミャンマーにおいては、ヤンゴン国立大学に次ぐ有力な大学であった。

ベニンホフ博士は、ミャンマーに赴任して間もなく、一九〇一年にエッセイを発表している。そのタイトルは「宣教のための三つの公理」である。ここでも、教育に対するあふれるほどの熱情が発露している。そのあらすじを紹介しておく。

(1) 一般の人々は、精神的なものが満たされることがないために、悲惨な状態にある。

(2) 私たちは、書斎に閉じこもり、東洋の聖典の類を学んで「アジアの光」と題する論文を書くこともできよう。ところが、自分、宣教の現場に来ている。人々の心を真にいやすものはキ

continuation of the further term. They returned home in 1904 and Dr. H. B. Bennighoff became pastor at the Valpraiso First Baptist Church 1904-1907.

In 1907 Dr. and Mrs. H. B. Benninghoff were sent to Japan to teach at the Duncan Baptist Academy. This school was first started in Tsukiji, the residence area for foreigners in Tokyo in 1895, and then relocated in central Tokyo. This is the one of the precursors of the present Kanto Gakuin School

System. It had the purpose of educating young boys in the middle school and college level. The other was the Baptist Theological Seminary which started in Yokohama in 1884. It aimed at training Japanese Christian ministers and preachers. This school was also relocated to Tokyo and later merged with the Duncan Baptist Academy. In 1919 it was again relocated to the central part of Yokohama and reorganized as the present Kanto Gakuin

リストのあがないである。それゆえ、宣教師の働きはとてども大切である。

(3) 私たちは、キリスト教教育を若い人たちに提供しなければならぬ。ビルマ族、カレン族の子弟たちがこぞって学校に通い始めている。ミャンマーにおいては、公認大学は私たちの大学とヤンゴン国立大学だけである。国立大学は設備はよいが、学生の精神的な配慮をしていない。私たちは施設を整備して、学生たちに誠実な教育を行ない、心からの配慮をしていかねばならない。そうでないと、若い人たちが失うことになる。

これらの提案は、百年後の今も、私たちが教訓として学び、実践していかなねばならないものである。

ベニンホフ博士は、一九〇二年には、マンダレー・バプテスト高等学校の校長に任命された。当時、この学校は北部ミャンマーにおける唯一の男子学校であった。マンダレーはヤンゴンから北に三百キロメートルのところにある、大都市であり、仏教の中心地である。しかしベニンホフ夫人がミャンマーの風土に合わなかったようである。一九〇四年に帰国している。

ベニンホフ博士は、一九〇四年から一九〇七年までヴァルバレイズ市第一バプテスト教会の牧師となっている。この町はインディアナ州の北西部にあり、ミシガン湖に接するポーター郡の中心の町である。

**東京学院の教授・学院長として**

ベニンホフ博士は、アメリカに戻



晩年のベニンホフ博士（(財)早稲田奉仕園資料室提供写真）

ってしばらく牧師としての任務に専念した。しかし初心を捨てたわけではない。むしろ再び宣教のために外国の地に派遣されること、そして自分たちがその風土に合うところで、精一杯活動ができる機会が与えられるように、祈っていたのではないだろうか。かつてミャンマーで経験したことを深く受け止め、「雌伏」の時とした四年間でもあった。実は、日本開港時に来日し、明治初期に活躍した初代宣教師たち、ヘボン博士も、S・R・ブラウン博士も、そしてベニンホフ博士の直接の先駆者、N・ブラウン博士も、みな同じように一定期間宣教地を離れている。しかしこれが次の雄飛のために役立つているとも言えよう。

一九〇七年にシカゴ大学からマスター・オブ・アーツの学位を授与された。またヴァルバレイズ大学からは名誉理学士の称号を授与された。シカゴ大学は一九〇九年にバプテスト教育協会によって設立された。一旦は財政的に破綻にいたり、一八八

九年にJ・D・ロックフェラーの支援のもとに再生したこのシカゴ大学は、最高のレベルを維持している研究を重視した大学である。ヴァルバレイズ大学は一八五九年に創立されている。博士が牧師として活躍した町の大学として、宣教と教育のため日本に派遣されるに際して、もともと理系出身の博士に名誉称号を贈ったのであろう。

ベニンホフ博士夫妻は、先ず東京築地三〇番地に住んだ。ここは外国人居留地であった。ここから青山学院、明治学院、立教学院などが出生している。関東学院の前身の一つ

東京学院も一八九五年にここから始まった。普通および高等教育を行なうために、アメリカ・バプテスト・ミッショナリー・ユニオンによって創設された。最初につけられた英語名は Tokyo Baptist Academy であった。初代学院長は、札幌農学校第一期生の渡瀬寅次郎博士であった。一八九九年に、東京学院は牛込左内坂に校舎を建設して移っている。

これを機に、英語名は Duncan Baptist Academy とした。それはアメリカ・バプテスト・ミッショナリー・ユニオン外国宣教担当主事、サミュエル・ホワイト・ダンカン博士を記念している。ダンカン博士は、一八九二年から一八九八年に逝去するまでその任務に当たられた。ダンカン博士は、ベニンホフ博士が最初に赴任したヤンゴン・バプテスト大学と東京学院の整備・充実のために大きな貢献をした人である。また博士の関係者から東京学院に多額の寄付がなされたからである。

一九〇三年にE・W・クレメント博士が渡瀬博士の後を継いで東京学院の学院長になった。博士は少数精鋭・英語重視の方針を堅持した。ベニンホフ博士が赴任する二年前、一九〇五年には、東京学院は専門学校令による高等科の開設を認められた。一九一〇年には、クレメント博士が学院長を退任した。博士は第一高等学校英語教授として招かれている。その後、ベニンホフ博士が東京

Dr. Harry B. Benninghoff — a missionary educator—

Dr. H. B. Benninghoff was born in Venango, Pennsylvania 1874. When he was seventeen years old, his mother passed away. Then he moved to Indiana to live on his own, preparing himself for going to college. He taught at several village schools and attended summer schools to study. In 1896 he

entered the Franklin College of Indiana where he met Miss Trottee Merrel from Kokomo, Indiana. In 1901 they were married and sent to Burma as missionary educators. He first taught chemistry and algebra at the Rangoon Baptist College (Judson College). In 1902 he was appointed principal of the Mandalay Baptist High School which was the only Christian boys' school in Upper Burma. But the illness of Mrs. H. B. Benninghoff prevented them from

**豫科生募集** 入志願者は三月廿五日迄に願出でられ度く入學の手續は規則書にて御覽被下度候  
 豫科生は是迄東京学院高等科に入學致し候處本年は早稲田大學高等豫科に入學致すこと相成り居り候  
 大正六年三月  
 東京市小石川區表町一〇九  
**日本バプテテスト神學校**

学院院长に就任した。クレメント博士は同じシカゴ大学出身のベニンホフ博士に学院院长の任務を委ねたことになる。

一九〇七年、ベニンホフ博士が東京学院に就任した年の報告によれば、学生数は中等部（注 今日の中學高等学校）は六十人、高等部（注 今日の大学）は七人であった。タッピング教授が中国およびイリピンからの留学生のために特別の活動を行っていた。この年三月に五十人の志願者がいたが、七人のみが合格した。他の者たちはきびしい試験に合格しなかったという。クレメント博士の主張する少数精銳主義が堅持されていたわけである。

横浜にまだあった関東学院の前身の一つである神学校は、学生が十三人、ベネット博士、C・K・ハリントン博士が中心に教えていた。F・G・ハリントン教授が教会史、教理史の授業を担当していた。高橋楯雄氏がアメリカ留学から帰国して教授陣に加わった。神学校の評判がよく、他の教派からの学生も来ていた。

一九〇八年の報告によれば、東京学院の在學生は七十二名。中等部については、定員六十人を百名に増員してよいという認可が与えられた。ベニンホフ博士は日本語研修中であるが、中等部のバイブルクラスと英会話クラスを担当しているという記述がある。

神学校では、ベネット博士、デーリング博士、パーシユレー教授が中心となって教えている。グレセツト教授も二日間東京から横浜に来て心理学と英語を教えている。それにデーリング夫人がギリシア語を教えているという。

一九一一年の報告によれば、東京学院は、ベニンホフ博士が学院院长になって活性化されたという。九十人の学生が在籍し、十五人の教師がいた。ホルトム氏夫妻が来日し、目下日本語研修中だが、教授陣が充実してきている。ホルトム博士は後に世界的な神道研究者として知られるようになった。

この年に、この神学校は福岡の南部バプテテスト神学校と合併した。まづ横浜での授業を止めて、十月に東京において、「日本バプテテスト神学校」という名称のもとに出発した。九人の理事会は、南北バプテテストミッションから三人、日本人三人をもって構成されていた。教授陣は二つの学校から出している。千葉勇五郎教授が校長、南部バプテテスト神学校からはポールディング、佐藤各教授、横浜バプテテスト神学校からはハリントン、高橋、テンネー、パーシユレー各教授が加わった。

一九一二年の報告によれば、ベニンホフ博士が東京学院の学院院长を務めながら、早稲田大学の学生寮の活動にかかわっている。しかし激務の

ために体調をくずし、グレセツト教授に東京学院の学院院长の任務を譲った。

神学校は予科の学生を東京学院で学ばせることにした。学生数は二十一名であったという。

一九一三年の報告によれば、ベニンホフ博士は、早稲田大学と緊密な

関係を確立している。博士は学生寮の活動とともに、早稲田大学で宗教学の講義を週二回行なっている。

実はこの時期に、キリスト教主義諸学校間で「キリスト教総合大学」設立案が検討されていた。東京学院からはクレメント学院院长、ベニンホフ教授、バプテテスト神学校からはフ



1934年早稲田奉仕園理事会（(財)早稲田奉仕園資料室提供写真）  
 (前列右から) W・アキスリング関東学院元理事長、(4人目)ベニンホフ博士  
 (後列右から4人目) J・H・コヴェル関東学院元理事、(6人目)時田信夫関東学院大学元教授、(7人目)多田貞三関東学院大学元教務部長

society) in the Young Men's Christian Association building, on 'The Psychology of Habit.' Mr. Gressitt gave two piano solos. There were 250 students present, most of whom paid for admission..."

Dr. Benninghoff worked as principal of the Duncan Baptist Academy 1910-12. Then he transferred the leadership of the academy to Mr. Gressitt who was sent to Japan in the same year by the American Baptist Missionary

Union. At last, he deployed his enthusiastic work among the students and professors of the Waseda University which was a non-religious secular institution and boasted of the largest number of students in Japan. He was asked to teach as a lecturer at the university. He started "Waseda Hoshien (the Garden of Service) Students Center and dormitory. Through these activities and other courses, he wanted to infuse Christianity into the young

イッシャー教授がこの検討会に参加していた。東京の多くのキリスト教主義学校がこのコンソーシアム（連合体）の第一歩として合同授業を始めることにした。しかし実際には、明治学院と東京学院がこれに参加しただけであった。ベニンホフ博士はこの流れの限界に気が付いたようである。

博士は早稲田大学の安部磯雄教授たち、文科系ばかりか、理科系の教授たちと交流があったので、東京学院の高等科の学生を早稲田大学の予科で学ばせる道を開いた。この方針を、バプテスト神学校と東京学院が早稲田大学に学生をいわば「托卵」したと見るか。思い切った経済的合理主義と見るか。学生の教育を委託すれば、それなりの経済的な分担が課せられるのは勿論である。しかしバプテスト神学校と東京学院の教授陣と学生たちのレベルが早稲田大学の教授陣と学生たちと肩を並べることでできていたことを、これは示しているとも言えよう。自分たちの独自性を保ち続けながら、よい教育をよい施設で行なう試みは、先の「キリスト教総合大学」とともに、試みとしては注目しておきたい。しかしいずれも長続きはしなかった。

ベニンホフ博士は、教派の枠を超えて、エキユメニカルな展望をもって、一般大学の教授たち、学生たちにキリスト教の価値観と感化を示そうとした。博士は、やがては日本各地において指導的な役割を担う若い学生たちに、キリスト教のものの見方を提示することが福音の種時きであること認識していた。

その後、ベニンホフ博士が行なった早稲田大学学生たちと早稲田奉仕園のための活動については、関係団

体の資料に任せせて、割愛しなればならない。

### 帰国後の働き

博士は、日米関係が悪化したために、やむなく一九四一年に帰国した。一九四二年にはこれまでの日本における教育活動を生かして、先ずシャートレフ大学宗教部主任として奉仕された。このバプテスト系大学はイリノイ州アッパ・オールトンにあった。アメリカ西部の宣教に使命を感じていたジョン・メイソン・ベックとボストンの内科医ベンジャミン・シャートレフによって一八三五年に創設された。（最近の大学年鑑には、この大学が掲載されていないので、どこかの大学に併合されているのである。）その後、母校のインディアナ州フランクリン大学に移り、日本および東洋史の講義を担当した。博士は一九四九年四月二四日に逝去、享年七五歳であった。フランクリン市の地方紙に載った死亡者略歴記事によると、博士はフランクリン大学のひとつも評判のよい教授の一人であったという。葬儀の司式を担当した牧師はこのように述べている。

「ベニンホフ博士は宣教師として先駆的な働きを行なわれた。博士は一教派の宣教師にとどまらず、エキユメニカル（世界教會的）な宣教師であった。博士は、第一級のキリスト者活動家であり、同時にすぐれた学究であった。また博士は才能ある音楽家であった。ピアノが堪能であられ、これをもって教會のために奉仕された。教會学校や友人たちの要望

に答えて、ピアノの演奏をされた。その他、多くの団体のために忠実に貢献してこられた。」

ベニンホフ夫人は一九五二年一月六日にカリフォルニア州バオロ・オールトにおいて天に召された。夫人は東京のアメリカン・スクールの校長をつとめ、夜学校で英語を教えていたこともある。終生日本を愛し、戦後日本に住んでいたお嬢さんのところで過ごすつもりであったが、願いがかなわなかったという。

### 一九二〇年のアメリカバプテスト教育事業報告から

アメリカ・バプテストの一九二〇年年度報告は日本における教育事業について総括している。この機会に紹介しておきたい。一八八四年に始まったバプテスト神学校と一八九五年に始まった東京学院を基盤として、一九一九年に関東学院が横浜に開設されるにいたった事情を、その翌年に伝えてくれているので、この報告書は歴史的意味を持つ。執筆者は署名がないが、このことの責任者であったC・B・テンネー博士と推測される。見出しは「教育事業の進展」である。

「一九一九年は、私たちの教育活動にとつて並々でない成果の年であった。教育活動には、いわゆる一般宣教師活動には求められないような配慮が必要とされる。私たちは教育活動をもっと支援しなければならぬと痛感している。これは広範囲な宣教師活動よりも建設資金をより多く必要とする。宣教師と本国理事會が『経費削減』を必要と考え、また政策の「重点的集中」が不可欠と判断するときであるので、都市での活動を適

切に維持するために、地方の活動が広く被害を被っている。これは行きついたことで、やむなきことであり、正当でもある。だれにも明らかのように、教育活動には適切な人材が必要であり、適切に支援されなければならない。一部の教育活動では、施設および人材が今も足りない。しかし全体として人材は充たされた。その点から言っても、成果のあつた年である。

横浜に男子のために、この度、メービー・メモリアル・スクール（注）関東学院の英語名称）が開設された。これは私たち宣教師にとつて、一九一九年における一大成果であった。しかも、これをみんなが喜んで一つの中心にあり、見晴らしのよいところに建てられた。これは何物にもまさって、バプテスト派の希望となる。偉大なるバプテスト派が、日本において価値あることをなしていること、またこの教育事業を立ち上げることに、初期時代の誤りを訂正することになる。これは素晴らしいことである。本館の一部は間もなく完成する。第二期工事の契約も成立している。前もって学生寮として建設された建物に、一年生を収容し、一九一九年に開校した。私たちが捧げた献金は、この大きな学校のために有効に用いられるであろう。

神学校関係では、一九一九年の主な特記すべき事柄は、千葉勇五郎博士が就任したことである。千葉博士がこの招聘を受託したことが発表されたとき、年次大会において大きな喝采が響いた。神学校は、本日に日本人校長のもとで、歴史の新しいページを始めることになった。千葉勇

School System.

In 1908, after one year stay in Japan, he wrote about his main concern "Reaching the Students" as follows:

"The Young Men's Christian Association is erecting a number of dormitories, each in charge of a native manager, a native Christian matron

and a foreign director. Mr. Gressitt has secured a place in one of these and is enthusiastic for the 'boys' He has, I think, thirty boys under his care.

At one of the new Young Men's Christian Association dormitories I have a Wednesday evening Bible class in English. Twenty of the thirty boarders are in Bible work....

On Saturday evening I was asked to address a students' meeting (literary

五郎博士、川口卯吉博士により、これまで以上に、神学教育に強い自信を持てるようになった。ただしC・K・ハリントン博士が日本に戻って来れなくなったのは残念である。彼の役割は、他の人をもっては決して埋めることができない。彼のような稀有な人物は、再び地上に現れることがあるまい。学生は期待したほど集まらない。しかし土台を固め、教育水準を高め、カリキュラムを改定し、教授陣を充実してきた。こうして、将来もっと多くの学生が入学しても、十分対応できるように整備している。

もうひとつ、私たちが正当に誇ってよい仕事がある。それは早稲田大学における活動の成果である。私たちが皆、これを喜んでいて、礎石を据え終ったわけではないが、ベニンホフ博士のもとで将来の発展が期待されている。この大きな大学における独特な活動のために一年以内に新しい建物を建設することを目指している。一九一九年はこの活動にとって画期的な年となった。学生たちの集まりが着実に発展して教会を組織した。これは大学における宗教的生活の現実の要素となった。学生寮に属する多くの学生がバプテスマを受けた。さらに数人が熱心に求道中である。私たちの努力の中から明らかな結果が表われているのは、いつも励ましとなつていて。昨年、この活動が人々の魂を救う企てであることを、疑いもなく証明してくれた。」

ては、教育が宣教のための土台づくり、土壌づくりとなることを告げる。バプテスト宣教団がはじめは少数精鋭主義の学校に重きを置いたが、その誤りを訂正するという。この立場はC・B・テナー博士の主張することである。博士の重点施策のゆえに、今日の関東学院の土台が据えられた。

一九一七年には東京学院中等部は閉鎖された。そして一九一九年に中学関東学院が開設された。やがて一九二七年には東京学院の高等科と神学部が関東学院に併合され、今日の発展のための枠組ができた。小規模校から中規模校へ転換をはかり、できるだけ多くの有能な人材を世に送り出すことが、社会的な影響力を及ぼすことになるとした。やがて戦争のためにアメリカからの支援は終わったが、その前に、このような形で、経営の安定化のための努力をしたことになる。

神学校は、一八八四年に始まり一九〇九年まで横浜山手にあったが、一九一〇年には東京に移り、南部の福岡バプテスト神学校と合併して日本バプテスト神学校となった。しかしこれは長く続かず、南部バプテストが引上げた後は、日本バプテスト神学校と東京学院に組み込まれた。一九一八年に高等学部、神学部となった。そしてやがて、それが関東学院の旧制専門学校の核となつていく。

ここの報告書でも、ベニンホフ博士の進める活動が高く評価されている。

(経済学部教授・学院宗教授主任／高野進)



東京学院の校舎の一部

souls. But in 1941 he had to return to the U.S.A. because Japan's government became militaristic and extremely anti-American. After returning to the U. S. he first worked as chaplain at the Shurtleff College, Illinois then he was invited to teach Oriental History at his alma mater, Franklin College of Indiana until his death in 1949. After the death of her husband, Mrs. H. B. Benninghoff, a Japanophile, wanted to live in Japan with her daughter. But,

her health failed and she followed her husband in 1952. She was also principal of American School in Japan, taught Bible classes and the English night school. Her gracious hospitality was highly appreciated by the people. They were enthusiastic Christian educators.

[大学生涯学習センター報告]

## 2005年度重点目標の達成に向けて

大学生涯学習センター所長 中原功一郎 (経済学部共通科目教室教授)

生涯学習センターでは、生涯にわたる学習機会を提供し、広く地域、社会に貢献するために、関東学院大学が有する人材や施設を活用し、広く皆様に受講して頂ける講座を開講しています。

2005年度春学期に開講された公開講座は、金沢八景キャンパス11、金沢文庫キャンパス2、小田原キャンパス1、関内メディアセンター11の合計25講座でした。受講申込者総数は、1,050名でした。資格講座は現在までに2講座が終了し、受講者総数は、334名でした。秋学期には、30の公開講座が開講されます。資格講座については、10月以降に開講されるものは、6講座です。

2005年度の重点目標として、1) 産・学・官の連携の強化、2) PR活動の強化、3) 講座運営組織の強化、を掲げました。産・学・官の連携とPR活動の強化については、春学期に開講された25講座の内、行政や関連団体から後援を頂いた講座が4、産学協

同講座が1となりました。また、新聞や関連団体のメディアに取り上げて頂いた講座もありました。秋学期では、開講予定の30講座の内、行政からの委託が1、行政や関連団体との連携講座が3、産学協同講座が3となる見込みです。秋学期の講座についても、後援を頂けるよう、またメディアに取り上げて頂けるよう、働きかけを行う予定です。講座運営組織の強化については、具体的には講座のコーディネーターの明確化を行いました。産・学・官の連携とPR活動の強化についても、コーディネーターのご尽力に帰するところが大きかったと言えます。今後もこうした動きを強化してゆく所存です。

資格講座については、新規に「日商簿記2級検定対策講座」と「日本語能力1級検定試験対策講座」を開講しました。前者は、主として本学学生を対象として、資格取得という側面からの就職支援策強化の一環として開講しました。後者は、本学で学ぶ留学生からの強い要望により開講しました。留学生に対する教育サービス向上に寄与するものと期待します。

公開講座については、時代のニーズを敏感に読み取り、上記3つの重点目標のもと、よりよい講座作りを目指して努力してまいります。資格講座については、社会の動向に注意を払いつつ、関係各方面からのご意



保育実践講座風景

### 2005年度秋学期公開講座

#### ●金沢八景キャンパス

1. 「楽しい人生への処方箋」
2. 「保育実践講座Ⅱ」
3. 「陶芸教室Ⅳ 両中高保護者会貸切」
4. 「コンサートシリーズ第5回」
5. 「パソコン2」
6. 「ラッピング」
7. 「ラッピング応用」
8. 「スポーツ健康講座ゴルフ」
9. 「中国語中級」
10. 「マネー新時代の資産プランを考える」
11. 「日本の文化」
12. 「名探偵シャーロック・ホームズの魅力の世界」
13. 「韓国語初級」
14. 「韓国語中級」
15. 「色彩講座Ⅱ」

#### ●金沢文庫キャンパス

1. 「非戦—平和の思想を考える」
2. 「第9回英語を味わう」
3. 「スポーツ講座ラグビー」
4. 「スポーツ講座野球」
5. 「スポーツ講座陸上」

#### ●小田原キャンパス

「小田原市市民大学公開講座  
現在のマスメディア—課題と展望」

#### ●関内メディアセンター

1. 「パソコン2」
2. 「ラッピング」
3. 「ホスピタリティ・養成基礎講座」
4. 「福祉・介護事業起業と経営」
5. 「巨大化する中国の現在」
6. 「実用パソコンⅡ」
7. 「哲学入門Ⅱ」
8. 「韓国語初級」

### 10月以降に開講される資格講座

#### ●金沢八景キャンパス

1. インテリアコーディネーター試験対策講座 (2次)
2. 2級建築士対策講座 (新規)
3. 福祉住環境コーディネーター3級試験対策講座
4. カラーコーディネーター3級試験対策講座
5. 教員試験対策講座
6. 公務員試験対策講座 (秋学期)

見をうかがい、多様なニーズに応えられるよう努力してまいります。今後とも、生涯学習センターの活動にご理解、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

Stronger Ties and Cooperation among Academic, Business and Governmental Communities and Better Service for Foreign Students  
by Professor Koichiro Nakahara, Director of the Life-Long Education Center

The Kanto Gakuin University Life-Long Education Center, established in April of 2002, continues to offer a wide variety of courses in the school year of 2005.

We offered 25 extension courses during the spring semester, among which four courses were under the auspices of private and/or governmental organizations, and one was a company-Kanto Gakuin partnership course. We will offer 30 extension courses in the fall semester. Three of them will be local

government/organization - Kanto Gakuin partnership courses, one of them, sponsored by a local government and three of them, company-Kanto Gakuin partnership courses. In this way, we are strengthening ties and cooperation among academic, business and governmental communities. Among the courses on qualifications, the one to prepare for "the 1st Grade of Japanese Proficiency" Exam deserves a special mention. This course was opened in reply to a strong request from foreign students in our university. We hope this course will contribute to improving the quality of educational service that our university can provide for the foreign students.

## 関東学院で学んだことを誇りに思っています

—— 榎本さんは、関東学院中学校で学ばれたそうですが、いつ頃のことですか。

**榎本** 1951年4月、中学校に入学し、1954年3月に卒業しました。

—— 関東学院での3年間の思い出を語ってください。

**榎本** 1945年の終戦後、連合軍に占領されていましたが、51年に日米講和条約が調印され、それ以後は社会が正常化に向かい始めました。そうした復興時代の初めの年である昭和26年の4月に関東学院中学校に入学しました。1年生のときの担任は、坂田創(はじめ)先生でした。物理の先生でしたが、礼拝で説教もされてきました。

—— 創先生は今はずでに学校を退職されていますが、関東学院の校訓「人になれ 奉仕せよ」を定めた初代学院長の坂田祐(たすく)先生の息子さんですね。

**榎本** そのとおりです。先生からはその校訓「人になれ 奉仕せよ」を教わりました。当時は意味はよく分かりませんが、今、思うと見事な言葉ですね。礼拝の時、わたしは歌を歌うのが好きだったこともあり、讚美歌をよく歌ったことも覚えていますが、また、八木一男先生の説教は、今でもその内容を覚えているほどに心に残っています。あだ名がホース(馬)の佐藤茂先生。英語の先生で、発音に厳しく、生徒の口の中に指を入れて舌の位置を教えるほどでした。今、人並みに日常会話ができるのは、その時に英語の基礎を



教わったお蔭と感謝しています。同じ苗字で習字担当の佐藤忠先生。躰の大変に厳しい先生でした。「字は下手でもいい、しつかり大きく書け」と教わりました。枠が書かれた習字の紙の場合、枠をはみ出すほど勢いよく書くと教えられました。ある時期、昼の弁当の時間がありました。ご飯一粒でも無駄にしないように厳しく躰けられました。今改めて評価されている「もったいない」の基にある精神を当時、教わった訳です。

—— ほかに心に残っている先生はいらっしゃいますか。

**榎本** 順序が前後しますが、一番思い出深い先生は、非常勤講師の村田勤持先生です。後年、漢文担当の専任教諭になられたと思いますが、先生は、正規の授業のほかに読書会、音楽会、演劇の会や映画鑑賞会などを顧問として開いてくださいました。実に熱心に教えてくださいましたね。勉強とは違う大事なものを身



## 建学の精神を生きる

電気事業連合会副会長・東京電力元副社長

# 榎本晃章さんインタビュー

につけさせてもらったと思います。大きさに言えば、「生き方」と言えるでしょう。語学や歴史を勉強することは、別世界への入り口を学ぶことですが、関東学院中学校で、その入口の向こうには、深く、面白い世界があることを感ずる教育を受けることができました。多感な時期にこのような経験をとおして感受性を豊かにすることができたと感じています。

—— 読書会ではどのような本を読んでいたのですか？

**榎本** アンドレ・ジードの『狭き門』、プラトンの『ソクラテスの弁明』、ヘルマン・ヘッセの『車輪の下』などです。そのほかの会も含めると、音楽、絵画、文学などを鑑賞することを通して、世界の文化の入口を学ばせてもらったことになりました。

—— なぜ村田先生は、そのような会を生徒たちのために開いていたのでしょうか。

**榎本** 悲惨な戦争を経験して、多くの人の生き方や人生観が変わる時代背景があったと思います。それでも、中学校でそのような会を生徒対象に行った村田先生は、当時としては、異色な先生だったと思います。思えば、異質なものを受け入れる素地が関東学院にあった訳で、立派なことですね。先生が、生徒たちを自分のことのように愛していたからでしょうね。

—— キリスト教については、どうですか。

**榎本** 「サムシング・グレート(Something Great)」の言葉は、尊敬する遺伝子の研究者・村上和雄先生(筑波大学名誉教授)の言葉です。60歳半ばを過ぎると、時に、「神」と呼ぶしか表現し得ないよう

If I did not study at Kanto Gakuin, he told us, I would not be interested in religion. Reading the Bible broadened my horizons.

His favorite words are "Something Great" and "Be a man. Serve the World", the Kanto Gakuin School motto.

His advice for Kanto Gakuin students is to pursue what you want from the bottom of your heart. It would be your happiness if you could find it.

His advice for Kanto Gakuin Schools is to have a strong point that is different from other schools.

He is proud of having studied at Kanto Gakuin. He continues to gather with his friends once in a year who were classmates at Kanto Gakuin.



な、世界を動かしているサムシング・グレート(偉大なる何か)を多く感ずるようになりました。この宇宙と歴史の中の一瞬に在ることを考えると、世の中を動かし、つくっている力があり、それが、キリスト教の神かなと理解しています。関東学院で学ばなければ、宗教に関心を持たなかったでしょうね。聖書を読んだことがものを考える幅を広げられたと思っています。

—— 榎本様のお仕事内容を教えてください。

**榎本** 現在、一般の電力会社は全国に10社あります。その10社が人とお金を出し合って、この団体「電気事業連合会」を組織しています。主な仕事は、各社が共通して抱える問題

について情報交換をし、共同して取り進む方向性を確認したりします。月に1度は、10社の社長による意見交換会を開催します。

—— 関東学院の学生・生徒・児童にアドバイスをお願いいたします。

**榎本** 聖書に書かれているやつてはいけないことと法律を踏まえることを前提に、多様な試みがあった方がいいですね。生き方は勿論、仕事や遊びにおいてもです。人は皆一人ひとり違うのですから、お互いその違いを認め合うことが大切です。若い皆さんには、「自分が何をやりたいか」追い求めてほしいですね。やりたいことが見つければこんな幸せなことはありません。自分の(Calling)天職)が見つければ、満足

榎本晃章(ますもと・てるあき)さんプロフィール

- 1938年5月12日、横浜生まれ
- 1954年 関東学院中学校卒
- 1957年 神奈川県立平沼高校卒
- 1962年 早稲田大学第一政経学部経済学科卒
- 1962年 東京電力入社
- 1968年 (社)日本経済新聞研究センター派遣
- 1995年 東京電力取締役
- 1999年 同常務取締役
- 2001年 同取締役副社長
- 2004年 電気事業連合会副会長、東京電力取締役(現在に至る)

インタビュー後記

できる人生が歩めると思います。

—— 関東学院へのアドバイスもお願いいたします。

**榎本** 中学校、高校、大学は、それぞれが、自分の生き方を決める大事な時代です。関東学院には、他の学校にはないような、特長ある存在になってほしいですね。教職員と学生・生徒でそのような特長をいかにつくっていくかが重要だと思います。関東学院で学んだことをたいへん誇りに思っています。そのときの友人の何人かとは、今も年に1度くらいは会っているのですよ。

榎本晃章さんは、世界一大きな電力会社である東京電力の副社長の経歴を持ち、現在も電気事業連合会副会長を務めていらっしゃるにもかかわらず、インタビューを自然体で受けていただいた。全く偉ぶるところが微塵もなく、心底謙虚な方であることに驚き、「真に偉い人は、謙虚である」という言葉を思い出した。

今回の取材をとおして、若いときの良き先生との出会い、友との出会いそしてキリスト教との出会いが、それ以後のその人の人生において、いかに重要であるかを学ぶことができ、感謝であった。

インタビュー◎広報課長・瀬沼達也

Having Studied at Kanto Gakuin is a Source of my Proud  
By Mr. Teruaki Masumoto

Mr. Teruaki Masumoto graduated from Kanto Gakuin Junior High School in March 1954. He is the vice chairman of the Federation of Electric Power Companies and the former vice president of Tokyo Electric Power Company.

Mr. Masumoto has many fond memories of his junior high school days. One of the most memorable things is the extra-curricular activity in which he participated, held off-campus by Mr. Kenmotsu Murata,

a part-time teacher at that time who later became a full-time teacher. That activity was very unique because it involved reading, music, drama and cinema appreciation and so forth. Mr. Masumoto said that Kanto Gakuin Schools were great because they accepted such teachers as, Mr. Murata, who was a man of unique character. Mr. Masumoto expressed gratitude toward the Schools, because he was able to feel the presence of deeper and more interesting worlds through Kanto Gakuin Junior High School education.

He remembers four other teachers well, namely, Mr. Hajime Sakata, Rev. Kazuo Yagi, Mr. Shigeru Sato and Mr. Tadashi Sato. He has special memories of each of the four teachers.

# 伊藤玄二郎教授にポルトガル国より勲章

人間環境学部現代コミュニケーション学科の伊藤玄二郎教授がこの度ポルトガル大統領より勲章を授与されました。

勲章は、ポルトガルの大航海時代の幕を明けた「航海王子」の異名を持つエンリケ王子を記念するエンリケ王子勲章コマンドール章といます。ポルトガル国との文化交流に功績のあった人物に贈られるものです。



◀エンリケ王子勲章コマンドール章および賞状



伊藤教授はリスボンの大学で日本文学の講義、16世紀に日本からわたった南蛮屏風の修復とその下張文書の研究、故小淵恵三元首相と刊行した日本ポルトガル小百科事典、天台声明とグレゴリー聖歌とのコラボレーションなど、20年にわたり多くのプロジェクトを手がけて来ています。

伊藤教授はポルトガルに加えて本年日本ロシア和親条約150周年の記念行事として、サンクト・ペテルブルグで芥川龍之介「蜘蛛の糸」についての講演と天台声明のプロデュースをされるなど、更に国際交流の輪を広げています。

▶(左から)ジョージ・サンバイオ大統領、伊藤玄二郎教授、ラマリーヨ・エアネス国家最高顧問



## 規矩大義助教授、地盤工学会誌「土と基礎」年間最優秀論文賞他受賞

工学部社会環境システム学科規矩大義助教授は、地盤工学会誌「土と基礎」年間最優秀論文賞ならびに事業企画賞を受賞しました。平成17年5月26日に開催された(社)地盤工学会定期総会で規矩大義助教授が「新漏地震から40年〜液状化現象の目撃者〜」の論文で地盤工学会誌「土と基礎」年間最優秀論文賞を受賞しました。

また、第39回地盤工学研究発表会における特別セッション「液状化現象の目撃者」の企画・運営に対し、地盤工学会・平成16年度事業企画賞を受賞しました。受賞団体：地盤工学会・震災記録普及小委員会(規矩助教授は、当委員会の幹事長)

## 新村浩一研究員、大塚雅之教授らJAABE優秀論文賞受賞

大澤記念建築設備工学研究所研究員

の新村浩一氏(三機工業(株))と大塚雅之氏(工学部建築学教授)等の論文が、アジア建築学論文誌JAABE優秀論文賞を受賞しました。

論文題目は、「Performance Evaluation Method for Drainage Piping Systems with Food Disposers in Actual High-Rise Apartment Houses. (実在超高層集合住宅でのデイスボータ排水システムの評価手法に関する研究)である。新村浩一氏は、大塚教授の指導のもと昨年9月に本学より工学博士号を取得した。その主たる論文での受賞である。なお、アジア建築学論文誌(JAABE)は、日本建築学会(AJCE)と韓国建築学会(AIK), および中国建築学会(ASC)で運営され、アジア建築の自然的、地理的、社会的、文化的に特有の問題や影響に関する研究をとりまとめることを目的とした国際論文誌である。

## 学生の中根美香さん、地盤工学会関東支部研究発表会で優秀講演賞を受賞

工学部土木工学科4年生(当時)の中根美香さんは、「地盤工学会関東支部研究発表会」で優秀講演賞を受賞しました。

2005年3月4日(社)地盤工学会・大ホール(東京)で開催された研究発表会(OSAKA2005)で、発表者の中根さん(規矩大義研究室)が優秀講演賞を受賞しました。

題目：軟弱地盤における人孔の浮き上がり被害に関する振動台実験

著者：中根美香 規矩大義 内山明日香  
なお、中根さんは現在、工学研究科土木工学専攻博士前期課程1年生です。

Professor Genjiro Ito is conferred a decoration on Commendable Badge in commemoration of Prince Enrique from Portugal

Professor Genjiro Ito has been conferred a decoration on Commendable Badge in commemoration of Prince Enrique from Portugal. This decoration is presented to those who have rendered distinguished service in the field of cultural exchange with Portugal. For the past 20 years Professor Ito gave lectures on Japanese Literature at universities in Lisbon, published the shorter encyclopedia of Japan and Portugal, and so forth.

Mr. Hiroyoshi Kiku, Assistant Professor in the Department of Civil and Environmental Engineering, received the Best Paper Award of the Japan Ground Engineering (2004).

Mr. Koichi Niimura, research worker in the Institute of Osawa Memorial Architectural Environmental Engineering, and Dr. Masayuki Otsuka, Professor in the Department of Architecture, received the Best Paper Award of the JAABE (2004).

Ms. Mika Nakane, Senior student in the Department of Civil Engineering, was awarded the Student Lecture Award Prize of the Ground Engineering of Kanto District Research Society (2004).

# ボランティア活動報告

## Report on Volunteerism

### ルワンダ支援に向けて

関東学院小学校 教頭 名取俊夫

「何が佐々木さんをルワンダに押し出しているんですか」との質問ですが、それは人生のとても大切な時期にルワンダの人々と出会ってしまったからとしか言いようがありません。…略」

これは、6月21日(火)、佐々木和之氏を関東学院小学校に招いて全校でお話を聞き、その後の質問に答えてくださったものです。それまで、ルワンダという国名も場所も知らない児童がほとんどでした。佐々木氏はルワンダ語で「こんにちは」の挨拶を教えてくださいました。少しずつルワンダの国の様子についての話が進むにつれて、引き込まれていきました。真剣に聞き入っている児童の心中は、その後書いた感想文の中からも察することができます。大虐殺の生存者でありながら敵味方の区別無く孤児を養っているマリアンさんの活動は心に残りました。お話を通し、ルワンダの平和と和解のために尽力されている佐々木氏の思いが一人一人に伝わって来ました。

関東学院小学校は、この佐々木和之氏の活動を支援することになりました。ルワンダの平和を願う気持ちは児童、教職員みんなが持っています。しかし、ルワンダまでは遠隔であり、現地の人に直接触れることはできません。私たちの思いを佐々木氏に託してお届けすることになります。と同時にまた、佐々木氏を通してルワンダを身近に感じることが出来ます。

今、定期的にルワンダの現状をレポートした佐々木氏からのメールが小学校に届いています。送られてきた情報を全校児童に伝えるとともに、私たちは佐々木氏を通して何ができるのか、具体的にどんな奉仕が行えるのか話し合い、考え合い、ルワンダに発信していきたいと考えています。

小学校児童、教職員の思いはルワンダに向けられています。この支援を通し、建学の精神にかかわる「奉仕教育」、さらには発展途上の国に目を向けた「国際理解教育」ができることと確信しています。



Report of Volunteerism  
Toward Assistance for Rwanda  
By Mr. Toshio Natori, Head of Kanto Gakuin Elementary School Teachers

On June 21, 2005, Mr. Kazuyuki Sasaki talked about Rwanda and its people to pupils at chapel. They were impressed with his talk. It has passed on each mind of our pupils that Mr. Sasaki helps people in Rwanda for peace and reconciliation.

The School has decided to support people in Rwanda through Mr. Sasaki's work. Now we are receiving information about them from him. We, pupils and teachers of the School, are discussing what and how we can support his work from now on.

We, teachers of the School, are positive that this support will promote voluntary education based on the School Motto and international understanding education toward the under-developing countries in each mind of our pupils.



サンタの姿でスカベンジしたメンバーたち（2004年12月25日、横浜駅）

り、ラジオにも出演しました。オープニング翌日の3月26日には、愛・地球博の対話劇場で1時間30分の大規模イベント「スカベンジフォーラム」を開催しました。

海外からのゲストも招聘され、「地球☆スカベンジ大計画！」に関わってきたメンバーが増え、盛り上がりは最高潮に達しました。さらに、3月27日には愛・地球博が行われる名古屋市へ感謝の気持ちをこめて名古屋の知人たちとスカベンジを行う企画も行いました。紙媒体の印刷物の代わりに、ゴミ拾いで使用するゴミ袋に宣伝を盛り込んだ、「フライヤーゴミ袋」を作成しました。そして事前申請や記者会見から興味を持ってくださった、NHK名古屋の方たちとは長い付き合いになります。そして、とても多くの方たちがこの計画に関わってくださいました。色々と、アクシデントがありましたが、これから始まる物語の最高のスタートは切れました。これに伴い、ステキなサイト <http://www.scavenger.jp> もできました。

## ごみ拾いはスポーツだ！ 自分は自然の一部分

最後に福田君に夢を語ってもらいました。「街がきれいになり、さらにいい汗をかけるんですから、一拳両得ですね。私はごみ拾いがスポーツと同じ価値観に位置づけられるような、環境活動とスポーツが等しい選択肢になる日を夢見ています。環境問題が叫ばれる今日、大きな世界で自分一人くらいがやってもどうにもならないという考えではなく、実は

『自分』とは『自然の一部分』の略なのでは？と感じる人が増えていくと嬉しいです。そのように気づいたことへの行動の一つとして私は、『スカベンジ』が多くの人に親しまれるようになってほしいです。」

福田君が、このような立派な考えと実行力を持ち得たのは、自身の能力と努力の賜物ですが、同時に人間環境学部の教育の成果でもあると思います。中田市長のHEPの活動への評価がそれを物語っています。「悩んでいたときに相談してくれた教授がいたことが、よかったんだね。社会にいいことをしているだけでなく、楽しんでいることが重要。ラグビーに次ぐ関東学院大学の花になる」

福田君は、人間環境学部一期生。パイオニアの今後の活躍と同時に後輩たちの意義ある伝統づくりに期待がかかります。これは建学の精神を端的に表す校訓「人になれ 奉仕せよ」の具現化でもあるからです。（編集：瀬沼達也）



スカベンジ、  
やりまスカ！

Mr. Fukuda's dream is that scavenging becomes one of the selective activities the same as sports. His presence is the best example of the fruits of education by the College of Human Environmental Studies, KGU. It also is the incarnation of the Kanto Gakuin School Motto: Be human, Serve the World.

# 中田宏横浜市長とKGU環境サークル HEP学生との意見交換会、 学内で開かれる

～KGU環境サークルHEP活動紹介～



2005年6月15日、中田宏横浜市長が本大学金沢八景キャンパスを訪問されました。KGUの環境サークルHEPの学生との意見交換会を行うためでした。これは横浜市企画「こんにちは市長です」の一環で、人間環境学部2号館会議室において開かれました。中田市長は、横浜が実施しているG30（ゴミ30%減量）運動の提唱者であり、衆議院議員時代の9年間、ご自宅から最寄駅までのゴミ拾いを続けてこられた方だけに、HEPの活動に共感をもたれ、学生たちを激励されました。

HEPとは、Human Environmental Project の略称で、「ヘップ」と発音します。2003年6月20日に結成されたサークルで、2005年8月現在は49名メンバーがいます。サークル設立のきっかけは、設立者の福田誠一郎君\*1曰く、金沢八景駅から大学までの通学路に落ちていた「ポイ捨てごみに気づき行動したこと」だそうです。

気づいた当時は大学1年生で、見てみぬフリをしていた自分自身に罪悪感を覚え、先生方に相談し、「自分自身ができること」と一人でごみ拾いを始めました。そして友人を集めて環境サークルHEPを立ち上げ楽しみながら活動を続けています。

また、積極的な活動展開による出会いから、「ごみ拾い」を「スカベンジ\*2」と称して使うようになります。スカッと気持ちの良いアクションとして広がっているようです。

※1 2005年8月現在、人間環境学部人間環境デザイン学科4年

※2 スカベンジ (Scavenge) とは、英語で「清掃する」という意味もあります。

## 「愛・地球博」で『地球☆スカベンジ大計画 (Earth Scavenge Project) !』

福田君は、2005年3月に開幕した「愛・地球博の市民プロジェクト」に『地球☆スカベンジ大計画!』として参加しており、その実行委員長を務めています。以下に彼の言葉も借りながら、この計画を説明いたします。

京都議定書の発効、そして「自然の叡智」「環境の共生」を謳う愛知万博の開催、2005年は環境の年。そんな中、愛知万博の市民プロジェクトをきっかけに、環境改善活動をそれぞれ実践してきた若者が集まり、チームを結成。それがこの「地球☆スカベンジ大計画!」です。

2～3月は、この計画がスタートし、ほぼ毎日の打ち合わせや作業があり、週末には徹夜での泊り込み打ち合わせを行いました。そして、万博の会場を下見して来たり、記者会見を行った



中田横浜市長を囲んで（中央の中田市長の左隣が福田誠一郎君）

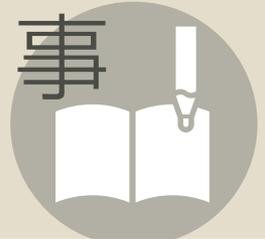
Mayor Nakata Talks with KGU Environmental Circle Students on Campus

On June 15, 2005, Mr. Hiroshi Nakata, Mayor of City of Yokohama visited KGU Kanazawa Hakkei Campus in order to exchange opinions with the KGU students who belong to HEP (Human Environmental Project) Circle. Mayor Nakata encouraged the students to continue their projects with sympathy toward their activities, because he is the proponent of Yokohama G30 (City Project) and has experiences of scavenging for nine years in the past.

Mr. Seichiro Fukuda, a senior of Department of Environmental Design, is a founder of HEP circle. Being a freshman of the Department, Mr. Fukuda felt guilty when he noticed himself pretending not to see garbage along the streets between Kanazawa Hakkei Station and KGU. And then he asked some professors' advice, finally he started scavenging alone. On June 20, 2003, he organized the environmental circle called HEP with his friends. At present, the circle with 49 members is very active.

Mr. Fukuda is a head of the implementation committee of 'Earth Scavenge Project!' that is one of civil projects of The Love-Earth International Exposition in Aichi, Japan.

# 関東学院 教職員 人事



**野中 康生**  
のなか やすお



- ①大学 経済学部経済学科 専任講師
- ②情報経済学
- ③2005年(平成17年)4月1日

**新任教員**

- ①所属
- ②主要担当科目
- ③就任年月日

**新任役員**

- ①最終学歴
- ②現職
- ③就任年月日

**大町 英理子**  
おおまち えりこ



- ①大学 工学部基礎・教養科目 助教授
- ②幾何学
- ③2005年(平成17年)4月1日

**萩原 美津**  
はぎわら みつ



- ①大学 文学部英語英米文学科 専任講師
- ②近代イギリス文学演習
- ③2005年(平成17年)4月1日

**帆苅 猛**  
ほがり たけし



- ①京都大学大学院文学研究科
- ②理事(野庭幼稚園長)
- ③2005年(平成17年)4月1日

**坂東 忠秋**  
ばんどう ただあき



- ①大学 工学部情報ネットワークメディア工学科 教授
- ②コンピュータアーキテクチャ
- ③2005年(平成17年)4月1日

**小谷(井田) 瑞江**  
こたに(いだ) みずえ



- ①大学 文学部現代社会学科 助教授
- ②家族社会学
- ③2005年(平成17年)4月1日

**畑中 康一**  
はたなか こういち



- ①一橋大学大学院経済学研究科
- ②理事(大学経済学部長)
- ③2005年(平成17年)4月21日

**小岩 一郎**  
こいわ いちろう



- ①大学 工学部物質生命科学科 助教授
- ②表面工学
- ③2005年(平成17年)4月1日

**石井(麦倉) 泰子**  
いしい(むぎくら) やすこ



- ①大学 文学部現代社会学科 専任講師
- ②障害者福祉論
- ③2005年(平成17年)4月1日

**J・A・アーマガスト**



- ①カンザス大学英語教育専攻
- ②理事
- ③2005年(平成17年)4月1日

**武田 俊哉**  
たけだ としや



- ①大学 工学部物質生命科学科 助教授
- ②生物化学工学
- ③2005年(平成17年)4月1日

**山本 宏義**  
やまもと ひろよし



- ①大学 文学部現代社会学科 特約教授
- ②図書館経営論
- ③2005年(平成17年)4月1日

## 学校法人 関東学院役員一覧

理事長	内藤幸穂
学院長	松本昌子
常務理事(総務)	星野彰男
常務理事(財務)	西野芳夫
常務理事(企画)	津田宏之
理事	大野功一
理事	富山 隆
理事	落越道彦
理事	清水 元
理事	島田正敏
理事	帆苅 猛
理事	小林照夫
理事	畑中康一
理事	本田耕一
理事	松井和則
理事	吉田 博
理事	桐木仁志
理事	ジョン・A・アーマガスト
理事	澤野芳久
監事	吉澤寿朗
監事	キャロリン・J・プレドモア
監事	岡田慎之助

[2005年(平成17年)8月1日現在]

**及川 智穂**  
おいかわ ちほ



①六浦小学校 養護教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**山本 晋弥**  
やまもと しんや



①中学校・高等学校 教諭  
②体育科  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**新任任期制教員**

①所属  
②主要担当科目  
③就任年月日

**鈴木 由美子**  
すずき ゆみこ



①六浦中学校・高等学校 教諭  
②英語科  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**柏倉 智春**  
かしくら ちはる



①野庭幼稚園 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**長瀬 晶子**  
ながせ しょうこ



①小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**鈴木 質**  
すずき ただし



①大学 専門職大学院 法務研究科(法科大学院)教授  
②企業裁判実務  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**肥田 真由美**  
ひだ まゆみ



①六浦中学校・高等学校 教諭  
②保健体育科  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**新任嘱託教務職員**

①所属  
②就任年月日

**舟山 なみ**  
ふなやま なみ



①小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**新任契約講師**

①所属  
②主要担当科目  
③就任年月日

**戸田 みな子**  
とだ みなこ



①小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**大津 稔**  
おおつ みのる



①大学 工学部電気電子情報工学科 実験助手  
②2005年(平成17年)  
4月1日

**石川 雄治**  
いしかわ ゆうじ



①六浦小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**宇野 真美**  
うの まみ



①中学校・高等学校 教諭  
②国語科  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**星野 紗葵**  
ほしの さき



①小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**佐藤 了**  
さとう さとる



①大学 工学部情報ネットワーク・メディア工学科 技師補  
②2005年(平成17年)  
4月1日

**八田 絵美子**  
はった えみこ



①六浦小学校 教諭  
③2005年(平成17年)  
4月1日

**水谷 安昌**  
みずたに やすまさ



①中学校・高等学校 教諭  
②社会科  
③2005年(平成17年)  
4月1日

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

- 3 New Members of the Board of Trustees
- 14 New Faculty Members
- 1 New Faculty Members Employed Temporarily
- 9 New Contract Lecturers
- 2 New Assistant Staff Employed Temporarily
- 7 New Office Clerk
- 5 New Contract Office Clerk

- 3 Retired Members of the Board of Trustees
- 15 Retired Members (by Mandatory Retirement Age)

退職役員

①役職名 ②退任年月日

所澤 保孝 ところざわ やすたか

①理事(野庭幼稚園長・六浦幼稚園長)  
②2005年(平成17年)3月31日

野田 敬一 のだ けいいち

①理事(大学経済学部長)  
②2005年(平成17年)3月6日

C・R・ディローフ

①理事  
②2005年(平成17年)3月31日

2004年度退職(定年・完全)

①所属

岩城 完之 いわき さだゆき

①大学 文学部現代社会学科 特約教授

酒川 肇 さかがわ はじめ

①大学 文学部現代社会学科 特約助教授

丹下 敏子 たんげ としこ

①大学 経済学部経済学科 特約教授

高野 幹久 たかの みきひさ

①大学 法学部法律学科 特約教授

村上 文昭 むらかみ ふみあき

①大学 法学部法律学科 特約教授

飛田 伸一 とびた しんいち

①大学 工学部基礎・教養科目 特約教授

伊地知 弦 いぢち ゆずる

①大学 電気電子情報工学科 教務職員(技師)

松木 桂子 まつき けいこ

①大学 守衛室 主査(選択)

山田 玖美子 やまだ くみこ

①大学 業務課 主査(選択)

大村 和子 おおむら かずこ

①大学 工学部庶務課 書記

斎藤 信也 さいとう しんや

①中学校・高等学校 教諭

花島 光男 はなしま みつお

①中学校・高等学校 教諭(選択)

浮田 檀子 うきた きょうこ

①六浦中学校・高等学校 教諭

神谷 敏泰 かみや としやす

①法人 施設部管理課 主事補

西川 昌宏 にしかわ まさひろ

①法人 理事長付 参事

堀口 壽雄

ほりぐち ひさお



①大学 教務課  
②2005年(平成17年)4月1日

渡部 崇

わたなべ たかし



①法人事務局 財務部  
経理課 書記  
②2005年(平成17年)4月1日

新任職員

①所属  
②就任年月日

高橋 千尋

たかはし ちひろ



①六浦小学校  
②2005年(平成17年)4月1日

藤田 英彦

ふじた ひでひこ



①中学校・高等学校  
書記  
②2005年(平成17年)4月1日

江口 幸史

えぐち ゆきふみ



①大学 入試課 書記  
②2005年(平成17年)4月1日

江川 清忠

えがわ きよただ



①大学 学生生活課  
②2005年(平成17年)6月25日

押井 幸治

おしい こうじ



①大学国際センター  
運営課 書記  
②2005年(平成17年)8月1日

川出 道紀

かわで みちのり



①大学 教務課 書記  
②2005年(平成17年)4月1日

爰地 基

こちち もとい



①大学 金沢文庫キャンパス教務課  
②2005年(平成17年)7月1日

新任嘱託職員

①所属  
②就任年月日

久保井 雅子

くほい まさこ



①大学 国際センター  
運営課 書記  
②2005年(平成17年)4月1日

氏名の( )は通称名です。

浅田 克己

あさだ かつみ



①大学 就職課  
②2005年(平成17年)4月1日

富岡 千博

とみおか ちひろ



①大学 教務課 書記  
②2005年(平成17年)4月1日

# 関東学院 各校NEWS



## 法人

### 関東学院 夏期特別ニューメディア講座、 関内メディアセンターで初めて開催

KGU関内メディアセンターでは、マルチメディア教育の試みとして、クリエイティブなマルチメディアの講座として、ニューヨーク州立大学で「ニューメディア」について教えている新井郷土氏を招いて、夏期特別ニューメディア講座を8月2日から25日まで開催しました。

これまでのソフトの機能紹介や使用方法解説の講習会とは全く異なる、今回の「ニューメディア」講座の試みは、日本でもまだ少なく、マルチメディア分野における創造的な教育の重要性に込める内容の先駆けとして実施する講座でした。

※「ニューメディア」とは？ イマジネーションを尊重し、それぞれの作品そのものが新しい創造性を語れる余地が多くあるマルチメディア

プロジェクトを制作する志しを持って、新たな学習体系「ニューメディア」を提唱します。

#### 〔開講講座〕

- コース①  
ホームDVD制作ワークショップ
- A (主に高校生・大学生対象)  
コース②  
ホームDVD制作ワークショップ
- B (主に社会人対象)  
コース③  
MIDI Project Studio with DAW\*



▲夏期特別ニューメディア講座風景

\*MIDI Project Studio with DAW\*  
(学生・一般対象)  
※MIDI (ミディ) : Musical Instrument Digital Interface)  
DAW (デジタル・オーディオ・ワークステーション)

## 大学

### 「耐震補強SPAC工法研究会」発足会、 開催される

7月25日(月)午後1時30分から3時50分まで、大学金沢八景キャンパス7号館107教室で「SPAC (鋼板併用アラミド繊維シート巻き) 工法を採用した耐震補強設計に関する研究会発足会が次のとおり開催されました。

主催：関東学院大学工学部建築学科 横谷研究  
室内SPAC工法研究会

後援：関東学院大学・三栄ハウス(株)、SPAC  
コンストラクション(株)

#### 〔講演内容〕

- ① SPAC工法研究会の理事・役員の話
- ② SPAC工法研究会の規約・倫理規定について
- ③ SPACコンストラクション株式会社の紹介
- ④ 基調講演 「耐震補強とSPAC工法について (実験値を基に)」

この講演のメインは、④の90分間の基調講演でした。本大学工学部建築学科教授でSPAC工法研究会長でもある横谷栄次博士は、この工法によって、その耐震安全性の改善を学問的に証明した開発者で、今回その実験値を基に講演されました。

本年1月26日に、この工法がNHKニュースで全国放映されて以来、現在に至るまで問い合わせが続いているそうです。当日の発足会は、約170名の参加者を得て、盛大に行われ、その参加者内訳は、神奈川県下の市役所担当者2割と企業の担当者8割でした。この数字を見ても、この新しい工法への関心の高さが伺えます。

[SPAC]とは、Steel Plate and Aramid Fiber Compositeの略で、「鋼板併用アラミド繊維シート巻き工法」の意味です。この工法の特長は次のとおりです。

- (一) 既存の建物の外観デザインや空間デザインを变えることなく建物当初の建築家のデザインポリシーを守りつつ耐震補強ができる点。
- (二) 特別な重機を用いることなく、建物を使用しながら耐震補強できる点。
- (三) 従来型の強度型手法の耐震補強とは異なり、建築基準法に基づく保有耐力計算または限界耐力計算にて安全性を評価でき「靱性型」手法を採用している点。
- (四) 工費が従来の鉄骨ブレース工法に比べ、大幅なコストダウンが可能であり、経済性を有している点。

Educational Foundation (Corporate)  
Kanto Gakuin offered three courses on new media, taught by Mr. Satoshi Arai, at the KGU Kannai Media Center from August 2 to 25, 2005. These courses are in the forefront of new media education in Japan.

University  
A Society for the Study of Steel Plate and Aramid Fiber Composite (SPAC) of Seismic Retrofitting Starts

A Society for the Study of Steel Plate and Aramid Fiber Composite (SPAC) for seismic retrofitting started on July 25, 2005 on Kanazawa Hakkei Campus, with the attendance of approximately 170 persons who

consisted of city officers in Kanagawa Prefecture and businessmen.

This SPAC was introduced widely to all Japan by NHK broadcasting on January 1, 2005. Since then, daily inquiry has been made until now.

The four characteristics of the SPAC are as follows:

- 1) That we can do seismic retrofitting while keeping the original design policy by its building architect, without changing outlook and space design of the present building.
- 2) That we can do seismic retrofitting without using a special heavy machine, changing while using the

23日午後、関東地方を震度5の地震が襲い、首都圏は混乱を招きました。東海地震の起こる可能性が、非常に高いため、今後、この工法は、地震多発国である日本において広く採用され、普及される工法となるでしょう。

「日本初の商店街ワイン」

『横須賀おっぱまワイン』で乾杯！  
NHK首都圏ニュースでも紹介

5月14日(土)、関東学院大学工学部昌子住江研究室が提案・協力して出来たワインナリーが誕生し、そのオープニング祝賀会が、横須賀市の追浜エルシャンテで開催されました。主賓として横須賀市長と本大学の大使学長が祝辞を述べ、昌子教授もワインナリーの説明と今後の抱負を語りました。

日本で初めて商店街がワインナリーを作り、「おっぱまワイン」が誕生しました。製造過程において、三浦沖海洋深層水が使用され、健康にもよい手作りワインです。フルーティな甘口で、コクがあり美味しいと評判です。

この祝賀会の様子は、5月16日(月) 18:30からのNHK首都圏ニュースで紹介されました。

硬式野球部、神奈川大学野球春季リーグ戦で4季ぶり47度目の優勝  
第54回全日本大学野球選手権出場

神奈川大学野球春季リーグ戦の最終戦は、5月29日、横浜スタジアムで関東学院大―神奈川大で行なわれ、本学が、9―0で圧勝し、4季ぶりに47度目の優勝を決めました。

同リーグにおける、本学の表彰選手は次のとおりです。

- 【最優秀選手賞】鬼崎裕司
- 【打点賞】清藤宏文
- 【打率ベスト3】原拓也
- 【ベストナイン】

- (投手)倉谷大祐
- (一塁手)清藤宏文
- (二塁手)原拓也
- (遊撃手)鬼崎裕司



▲ナインに胴上げされ、宙を舞う小泉監督

この優勝により、本学硬式野球部は6月7日開幕の第54回全日本大学野球選手権大会(神宮球場、東京ドーム)に2年ぶり24度目の出場を果たしました。

6月8日、東京ドームで本学は、第1回戦で東亜大学と対戦しました。

初回到清藤選手の本塁打、1走梶本選手と3走岩永選手の重盗などで4点を先制した本学硬式野球部は終始リードを保ち、優勝候補の東亜大学を8―1の8回コールドゲームで勝利しました。

2回戦は、9日(木)、神宮球場にて、創価大学と対戦しました。6回まで2対2と拮抗したゲームでしたが、残念ながら、6回に守りのミスが出て、2―5で惜敗しました。来季のさらなる活躍を期待します。

富澤慎君(人間環境学部3年)、  
第23回ユニバーシアード競技大会ボードセイリングで8位

人間環境学部3年の富澤慎君は、2005年8月17日から21日までトルコのイズミルで開催された、国際大学スポーツ連盟主催による第23回ユニバーシアード競技大会(2005/イズミル)にボードセイリング日本代表選手として参加し、見事8位に入りました。

サッカー部、大学サッカー選手権大会  
都県代表出場・県知事杯準優勝

第19回関東大学サッカー選手権大会兼第29回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント大会に都県代表として出場しました。

試合結果 (Bブロック)  
6月12日(日) 本学 0―1 東洋大学

平成17年度神奈川県知事杯争奪戦(平成17年6月5日～7月9日)におきまして、準優勝の成績をおさめました。

試合結果 Aブロック戦績4勝1引き分け 1位  
6月5日(日) 本学 2―0 横浜商科大学  
6月11日(土) 本学 3―1 防衛大学校  
6月19日(日) 本学 3―1 産能大学  
6月26日(日) 本学 9―0 東京工芸大学  
7月2日(土) 本学 1―1 東海大学  
1・2位決定戦  
7月9日(土) 本学 0―1 神奈川大学

卓球部30年ぶり県下リーグ男女アベック優勝

神奈川県下大学卓球リーグ戦が7月2日・3日に横浜国立大学で開催されました。

本学は、男女とも予選リーグを3戦3勝で決勝トーナメントに勝ち上がり、男女揃って優勝いたしました。

「男子」男子は、30年ぶりの優勝！  
2回戦 本学 3―0 慶応大学 C  
準決勝 本学 3―1 東海大学 A  
決勝 本学 3―0 慶応大学 B

「女子」女子は、初優勝！  
準決勝 本学 3―1 東海大学  
決勝 本学 3―2 明治学院大学 A

Mr. Makoto Tomizawa, a junior in the College of Human Environment and a member of Boardsailing Club, took 8th position of Sailing Men's Windsurfer - Mistral Class in the Universiade 2005 held in Izmir, Turkey.

The soccer club team participated in the 19th Kanto District Championship held in June, 2005. The team finished second in the Kanagawa Governor's Cup (2005).

The table tennis club (both men's and women's team) won the championship in the Kanagawa Prefecture League.

Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools  
On April 28, 2005, the 8th graders took a field-trip to Kamakura Zaimokuzha beach in order to clean up and make molding by sand. They had a significant experience outdoors.

Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools  
Service on Flower & Children's Day, June 8, 2005, was celebrated with various flowers brought by the students. After the service, the 7th graders separately visited ten social welfare facilities in order better to understand residents and how to be volunteers. The students experienced the joy of serving others.

## 中学校高等学校

### 中2校外行事「海岸清掃と砂の造形」

中2になって日も浅い4月28日、新しいクラス作りを目的に鎌倉の材木座海岸で生徒たちが奮闘しました。当日はものすごい風の中、鎌倉駅、長谷駅、由比ガ浜駅にクラスごとに集合し、「ゴミを拾いながら会場の海岸を目指しました。」「ゴミもたくさん集まり、環境について考えると共に奉仕することの大切さを感じていました。」

作品の制作に入ると、手探りながらもそれぞれが工夫を凝らし黙々と取り組む姿が微笑ましかったです。クラスごとに事前にテーマを決め、それぞれが役割分担をして取り組んでいました。海水を運ぶ者、自宅から大きなスコップを持ってきてうす高く砂を積み上げるもの、担任も砂まみれになりながら取り組んでいました。



▲生徒が制作した砂の作品

最優秀賞をもらったクラスの生徒がこんな言葉を残しています。「一人じゃ出来ないこともみんながやれば出来るという、よくあるせりふはこのことかと、砂の造形を通して実感できました。」

これからもさまざまな行事を通して、教室では学べない事を一つでも多く身につけてほしいと願っています。

教諭 鷹巣 誠一

## 六浦中学校高等学校

### 春季特別伝道礼拝(花の日礼拝)

六月八日、生徒たちが持ち寄った色とりどりの花を飾り、春季特別伝道礼拝を守りました。



▲春季特別伝道礼拝で賛美する生徒たち

礼拝では、山田和夫先生(医療伝道会法人付牧師)を講師としてお迎えし、「いのちの尊さとはかなさ」と題してのメッセージはとても感銘深いものでした。

先生は日頃、病院で面会される患者さんとの数多くの事例を取り上げて、人間としての真の価値、今、与えられている命の大切さをやさしく具体的に教えて下さいました。

礼拝後、中学一年生は各班に別れ、横浜、横須賀市内の一〇施設を訪問し、花を届けました。当日は天候にも恵まれ、生徒たちは楽しい体験学習の一日を過ごすことができました。それぞれの施設での交流と奉仕活動が、生徒たちの人格形成にとって、図らざる大きな結果を生むことを期待したいものです。

校訓「一人になれ 奉仕せよ」を活かす学校行事の一つとして、今後も大切にしたいと思います。

六浦中高 宗教主任 鳴坂 明人

## 小学校

### 協力して作ったサラダの味は格別

五、六年生になると学習する教科に家庭科が入ってきます。

七月八日(金)、五年生が家庭科の調理実習で野菜サラダを作りました。スーパードンピニインスタアの増加する中、好きな時に好きなものを好きなだけ食べられる便利な生活に慣れている児童です。そのような中で調理実習では食事を作ることを通して、愛情を根底にした家族の思いや願いが料理にこもっていることに気づかせるのがねらいになります。

この日、学校で育てたジャガイモをブロッコ

workers of shopping streets is the first in Japan. This opening expects to be a project intended to stimulate local economies.

The KGU baseball team won the Championship of the Kanagawa Collegiate Baseball League by beating Kanagawa University 9-0 on May 29, 2005, at Yokohama Stadium. This was 47th Championship title.

At the 54th National Collegiate Baseball Union Championship, the KGU team beat Toa University 8-1 on June 8, and on the next day, they lost a game (2-5) to Soka University.

present building.  
3) That SPAC has adapted persevering method that can evaluate safety by limit endurance computation  
4) That we can cut down on expenses by using SPAC, compared with the steel composite

On May 14, 2005, the opening ceremony for Yokosuka Oppama Winery was held. In attendance were the Mayor of City of Yokosuka, President Koichi Ono of KGU, and many supporters. The event was broadcast by NHK news two days later. This proposal of winery and assistance to actualize it was made by Professor Sumie Shoji, Department of Civil and Environmental Engineering and her students. Winery made by



▲協力してサラダを作る児童たち

リーやキャベツと一緒にゆでました。きゅうりやトマトを包丁で切って、ゆでた野菜にそえてお皿に並べました。ほとんどの児童は初めて包丁で切る体験でした。気を付けて切る姿は真剣そのものでした。最後にドレッシングを作りました。みんなで協力して作ったサラダの味は格別です。この授業を通して、私たちは神様に愛され、生かされていることも学びました。

教頭 名取 俊夫

## 六浦小学校

### 伝統行事の自然学校

子ども達が、とても心待ちにしている行事に「自然学校」という行事があります。自然学校は、学校をはなれ、それぞれの宿泊地で体験学習を中心にし、寝食を共にする行事です。

この自然学校を通して、自然を創造された神様



▲自然学校での思い出のスナップ

を賛美し、友達との友情を深めることを目的に、本校創設以来続けられている行事であります。今年の主題は「光の子として歩みなさい」で、聖句は、ローマの信徒への手紙第15章1〜2節です。

今年の宿泊場所は、1年城ヶ島、2年箱根、3年中伊豆、4年軽井沢、5年那須、6年清里です。清里の清泉寮は、創設以来宿泊場所が変わっていません。泊数は、1・2年が1泊2日、3・4年が2泊3日、5・6年が3泊4日です。

教頭 内田 光生

## 六浦幼稚園

### 春の親子遠足

朝から気持ちの良い天気となった5月26日、海の公園に親子で遠足に行きました。集合場所

で待っていると、親子で手をつないで（荷物の中には潮干狩りの道具を入れて）歩いてきます。「おはようございますー」どの子の顔も嬉しそうです。進級・入園して一カ月程の子ども達・お家の方達との親睦の意味もあり、屋外で体を動かす事が心地よいこの季節に海の公園の遠足はぴったりです。



▲「輪になって踊ろう」



▲「いたよ！ 見て見て」



▲遊びをリードしてくれるのは年長児

思いを重ね合って

野庭幼稚園

お天気の良い日は朝からどろんこ遊びが盛んでした。新入園児の子ども達は、笑い声や裸足の魅力にひかれて周りを囲んで見えています。園庭には水の道ができていて、高い方から低い方へと流れていくその途中に粘土質の良い土ができ上がります。どろだんごは何度も繰り返し作

写真を撮り、おいしいお弁当の時間になりました。食後は、砂浜へ。この日は大潮で潮干狩りにはとてもよい日で、親子で砂を掘ると、次から次へと貝が出てきました。「いたよー!」見えて見えてと蟹にも出会い、あちこちから歓声が聞こえてきました。日焼けした顔が楽しかった一日を物語っています。

教諭 鈴木 直江

日露修好150周年記念  
講演とシンポジウム開催のお知らせ

日露文化交流と教育の役割

日時 2005年10月8日(土)14:00~17:00

内容 第一部 14:00~15:00  
講演 「横浜・ロシア・ドストエフスキ」  
松本 昌子 関東学院学長  
朗読/声明 「蜘蛛の糸」  
牧 三千子氏 (朗読) (女優)  
齊川 文泰氏 (声明) (吉祥山寛相寺住職)

第二部 15:15~17:00 (通訳付)  
シンポジウム 「日露文化交流と国際交流における教育の役割」  
パネリスト M・Y・ガルージン氏  
(在日ロシア大使館公使・文化担当)  
イリーナ・ガレーバ氏  
(Japan Tabacco Int'l PR Manager)  
河東 哲夫氏  
(日本政策投資銀行上席研究員、前・在ウズベキスタン大使)  
近藤 誠一氏  
(外務省国際貿易・経済担当大使、前広報文化交流部長)  
小林 和男氏  
(ジャーナリスト、元NHKモスクワ支局長)

(兼司会) 伊藤 玄二郎 関東学院大学教授

会場 関東学院大学 金沢八景キャンパス SCC館ベネットホール

主催 学校法人 関東学院

企画運営 神奈川新聞社

後援 ロシア大使館、外務省、NHK横浜放送局、神奈川県、横浜市

申し込み先 関東学院総務課/TEL: 045(786)7028  
お問合せ先 FAX: 045(786)7038  
Eメール: soumu@kanto-gakuin.ac.jp  
http://www.kanto-gakuin.ac.jp



▲選ぶお花にもその子らしさがあふれます

る根気が必要で、一人で作っていると、ため息が出てきます。友達と自分流の作り方を伝え合い、工夫していきますと、失敗した時も「こんどはこうすれば?」と励ましが得られ、もう一度やってみようとチャレンジする意欲も生れてきます。

わたしたちの「ありがとう」の思いを伝えたい。花の日礼拝の後、年少児はお花をアレンジメントに仕上げてお届けしました。みんなのやさしい気持ちを込めるといふ流派で、「うさぎ流」です。

日々の生活の中で喜び・いたわりなどを自己表現していくことで、自分自身も癒され、やさしい気持ちになれる子ども達でした。

常に聖霊の働きに助けられて過ごしている子ども達。思いを重ね合う時、うれしい時、和解放が必要な時も、聖霊の働きが底にあることを信じて、これからも歩んでいきたいものです。

主事 小高 千恵

Kanto Gakuin Elementary School  
On July 8, 2005, 5th graders prepared salad and dressing in a cooking practice. They had a good time and enjoyed a delicious dish.

Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarten  
All pupils made overnight trips to Jogashima for 1st grader, Hakone for 2nd, Nakaizu for 3rd, Karuizawa for 4th, Nasu for 5th, Kiyosato for 6th as School in Nature. This traditional off-campus program has two purposes: one is they praise God who created the nature; the other is they deepen friendship with each other.

Mutsuura Kindergarten  
Children at Mutsuura Kindergarten went on a trip to the Sea Park with their parents. They especially enjoyed shell-gathering on the beach on a fine day.

Kanto Gakuin Noba Kindergarten  
The service on Flower Day was performed with various flowers brought by the children at Noba Kindergarten. After the service, they made flower arrangements by their ways to express their gratitude.

## 関東学院各校同窓会の紹介

- ・大学 同窓会 燦葉会(さんようかい)  
☎045-784-0310
- ・女子短期大学 同窓会 香葉会(こうようかい)  
☎045-787-7859
- ・中学校高等学校 同窓会 橄欖会(かんらんかい)  
☎045-231-0134
- ・六浦中学校高等学校 同窓会 六葉会(ろくようかい)  
☎045-781-2525
- ・小学校 同窓会 たんぽぽの会  
☎045-241-2634
- ・六浦小学校 同窓会 しおん会  
☎045-701-8285

### しおん会



## しおん会の紹介(六浦小学校同窓会)

会長 小泉孝一

関東学院初等科教育の嚆矢である母校。その卒業生会であるしおん会は、昭和37年頃に第一回から第四、五回位の先輩方が中心となって発足しました。現在では四千名を超える会員を数え、「会員の把握と会員相互

の親睦、母校への協力」を目的として活動しています。

特に母校の伝統行事のバザー(毎年、概ね11月3日)では、毎年「手作り教室」を行って児童やご父母の方々に楽しんでいただいています。

### たんぽぽ会



## たんぽぽ会の紹介(小学校同窓会)

会長 木下利夫

関東学院小学校の同窓会は、「たんぽぽの会」と言います。今年2005年3月の卒業生が第49回生となり、会員数も3,150名となりました。会の名称は、小学校を卒業した人達が、たんぽぽの種のようにいろいろな場所、いろいろな時に飛んで行き、それぞれにまた新しいたんぽぽの花を咲かせるがごとく活躍することを祈念し、小学校元校長故水船六洲先生が命名したものです。

わたくし達の活動は「秋の屋外なかよし会」に食べ物や写真販売で参加し、その収益金を小学校へ寄付させていただくことをはじめ、12月にはクリスマス礼拝、新卒業生の入会式、隔年開催の総会、総会のない年に行う懇親会等、先生方にもたくさんのご協力をいただいで、会の活動を積極的に進めています。こういった活動の報告と会員相互のコミュニケーションを図るため、全カラー版広報誌を毎年発行しています。

第1回卒業生は既に還暦を越えられました。12歳から気持ちとはとって若い60歳まで、これからも三

春台の小学校の、そして関東学院全体の発展のためにたんぽぽの輪を広げて行きたいと思います。



活躍する卒業生

フルブライト教養学部最優秀教授賞を受賞して



米国アーカンソー大学 フルブライト教養学部外国語学科 助教授 ●福島達也

アーカンソー大学に就任して5年、ようやく大学運営システムなどがのみこめて来たばかりの新米教授にとって、J・W・フルブライト生誕100周年という記念すべき年に、しかもアジア人として初めてフルブライト教養学部最優秀教授賞を受賞したことは望外の栄誉であり、感激に堪えません。

アーカンソー大学は、政界進出前のビル・クリントン元大統領がロースクール教授として教壇に立ち、「留学生制度の父」として知られるフルブライト上院議員が学長を務めた大学として知られています。クリントン元大統領が冷戦後の世界に残した偉大な足跡は周知のところですが、冷戦下の米国においてマッカーシズムに敢然と抵抗し、ベトナム戦争拡大を峻烈に批判したフルブライト上院議員の功績も、近年刊行された自叙伝「権力の驕りに抗して」(日経ビジネス人文庫)などを通じてご存知の方も多いと思います。同上院議員の名を冠する学部就任した当初はその名前に圧倒される毎日でしたが、職場では今回ご推薦いただいた先輩教授陣をはじめとする同僚たちに支えられ、家庭では内助の功に大いに助けられ、今日に至るまで気持ち良く仕事をしております。

当大学に着任して最初に取り組んだのは、受講者数の停滞が目立っていた日本語課程の抜本的な立て直しでした。まず、当時頻繁に行なわれていた食事持ち寄りパーティーなどにおける交流や話し合いを通じて学生の気質・特徴をよく理解し、そこで得たものを教授法に生かすようつとめました。また、近年流行のマルチメディアは通常の宿題などだけでなく、授業で学んだ成果を形に残す手段として積極的に導入するようにしました。その一例が中級日本語の授業で毎年春に実施している「日本語版大学プロモーションビデオ製作プロジェクト」で、シナリオ製作から録画、BGM選曲、ビデオ編集に至る作業は全て受講生が自ら行ないます。

こうした改正が幸い功を奏し、着任時に60名余だった受講生総数が昨年には180名近くに増え、今年度は副専攻課程開講の正式認可を受けることができました。日本の言語・文化に関心を抱いて集まってくるアメリカ人学生の能力を最大限に引き出すプログラム作りに取り組んできた結果、予想以上に多くの優秀な学生から好評を得られただけでなく、大学関係者各位から身に余る評価をいただき、大変光栄に思います。

アーカンソー大学キャンパスの歩道は「シニア・ウォーク」と呼ばれています。これは1876年の第1期生から卒業生全員の氏名を歩道に刻んだもので、長さは8キロメートルに及んでいます。このシニア・ウォークに歴史を刻む人を育てるアーカンソー大学は関東学院のモットーである奉仕の精神を実現する場所としては理想的なところであり、この緑豊かな地にチャンスを与えられた私は報恩者であると思います。今回の受賞は私にとってあくまで通過点。成人式を迎えたつもりで、これからも努力してゆく所存です。

福島達也博士 略歴

神奈川県横浜市生まれ。関東学院六浦中学・高校を経て、関東学院大学文学部英米文学科卒業。その後、米国オクラホマ州立大学修士・博士課程修了を経て、2000年アーカンソー大学フルブライト教養学部外国語学科助教授に就任。現在、同学科日本語課程主任を務め、日本語および社会言語学の講義を担当する。また、米国・ヨーロッパの学会誌における論文発表にたずさわっている。主な研究分野は談話分析、社会言語学、テクノロジー補助言語教育。

※アーカンソー大学は2002年度から関東学院大学の協定校となっている。



授賞式後のスナップ写真(右から ドン・ボビット教養学部学部長、ケイ・ブリュット外国語学科長、チャールズ・アダムズ教養学部副学部長、福島助教授)

編集後記

学報No.30をお届けいたします。学院の動向や各校のトピックスを中心に誌面の充実に意を注いで参りました。いかがでしたか。

表紙には、昨年新築した1号館、改築2号館の待従川から見た写真を、裏表紙には、同川沿いプロムナードに設置されている歌川広重作「金沢八景」の一つ「洲崎晴嵐」の記念碑写真を掲載しました。景勝地として古くは江戸の庶民にも親しまれた街、金沢八景。鎌倉時代には金沢文庫や六浦湊を擁し、文化・学問・貿易の中心地として栄えました。この碑は、本学院が自然環境に恵まれていることの象徴といえるでしょう。

2009年に関東学院は、1884年、横浜山手に創立の横浜バプテスト神学校から数えて125周年を迎えます。2009年は横浜開港150周年の年でもあり、4年先のことですが、その年を一つの目標として学院事業を展開して行くことになります。これを記念して「創立125周年記念ロゴ」を制作しました。関東学院各校の校章は、平和の象徴であるオリブをモチーフにしていますので、このデザインにも採用しました。そして何より建学の精神を端的に表す言葉、「人になれ 奉仕せよ」を加えてあります。このスクールモットーは、幼稚園から大学院までを擁する本学院の象徴的言葉であり、百二十有余年の歴史をもつキリスト教主義学院のバックボーンであります。

今後も皆様にあ愛される誌面づくりを目指します。ご意見ご感想をお寄せくだされば幸いです。

総務部広報課

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。

宛先 〒236-8501  
横浜市金沢区六浦東1-50-1  
関東学院 法人事務局広報課  
電話 045(786)7006  
(E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp)

Fulbright College Master Teacher Award  
By Tatsuhiro Fukushima

It is a distinct honor to be selected as the first Asian recipient of the Fulbright College Master Teacher Award at the University of Arkansas, where former President Bill Clinton served as law professor and Senator J. William Fulbright as president. My first task upon taking office in 2000 was to implement comprehensive reforms in the Japanese program including curriculum redesigning and integration of multimedia technology as a tool of constructive learning. Although initially overwhelmed by the legacies of President Clinton and Senator Fulbright, I have been able to handle my duties comfortably thanks to

the enthusiastic support of my colleagues in office and my wife Gek at home. Today, with enrollment having tripled in five years, the program is gaining recognition in the state. As a Kanto Gakuin alumnus bearing a special responsibility to honor the principle of serving the world, I am grateful to have found the Land of Opportunity.



侍従川沿いプロムナードに設置されている歌川広重作「金沢八景」記念碑

学校法人

# 関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

人にたれ  
奉仕せよ

## 関東学院大学

☎045-781-2001(代)

### ●金沢八景キャンパス

☎045-781-2001

- ◇経済学部（昼夜開講制）
- ◇工学部（昼夜開講制）
- ◇人間環境学部
- ◇大学院（経済学研究科・工学研究科）
- ◇法科大学院（法務研究科）

### ●金沢文庫キャンパス

☎045-786-7169

- ◇文学部 ◇大学院（文学研究科）

### ●小田原キャンパス

☎0465-34-2211

- ◇法学部 ◇大学院（法学研究科）

### 関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

### 関東学院小学校

☎045-241-2634

### 関東学院六浦中学校高等学校

☎045-781-2525

### 関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

### 関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

### 関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

法人事務局 ☎045-786-7028(代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して

**R100**

古紙配合率100%再生紙を使用しています

23000